

平成 30 年度

福島学院大学・大学院・福祉学部・短期大学部

自己点検・ 評価報告書



福島学院大学
大学院・福祉学部・短期大学部

2018

福島学院大学 自己点検・評価委員会



報告にあたって

平成28年度に本学短期大学は、短期大学基準協会による認証評価を受審しました。翌、平成29年度、本学大学院と福祉学部が、日本高等教育評価機構での評価を受審しました。それらの結果、本学は、大学、短期大学共に高いレベルの教育を実践していると確認されました。その報告は、短期大学部については、大学報28号、大学院、福祉学部は、大学報30号にてお知らせしたところです。

この2つの認証評価は、本学の自己点検の一環として行われました。本学の自己点検評価活動は、平成7年度から始まります。当初の自己点検評価報告書は、各学科の教育活動だけでなく、事務部の活動の報告も含んでいました。また、平成10年度からは、授業評価アンケートの各教員ごとの結果も含まれるようになりました。その後、授業評価アンケートに絞った報告書となり、平成29年度の本学独自の自己点検・評価報告は、日本高等教育評価機構に提出した「自己点検評価書」をもって行いました。

平成30年度は、菅野英孝名誉理事長（当時、学院長）先生が指揮した授業アンケート改革が行われましたので、その経緯も含め、授業アンケート結果分析を、各専攻学科の教育に関する報告と共に、本冊子にて報告します。

令和元年5月1日

副学長、自己点検・評価委員長
梅宮 れいか

* 次頁以降、本報告書中の職位は、平成31年3月20日現在のものである。

第1章

平成30年度

新方式授業アンケートシステムによる授業改善

自己点検・評価委員会

委員長 梅宮 れいか

平成30年度

**学生の授業外における学修時間・学修行動アンケート
調査結果および今後の改善方策**

学長 小松由美

平成 30 年度 新方式授業アンケートシステムによる授業改善

自己点検・評価委員長 梅宮 れいか

平成 30 年度より始まった、新授業アンケートは、学生の生の声が授業に素早く反映されるように設計された、他に類を見ない授業アンケートシステムである。平成 30 年度は試行期間としてこれを実施し、本学の「感銘と感動を与える教育」を推し進める要件のひとつであるとの確信に至ったので報告する。

新授業アンケートの概要

これまで（平成 28 年まで）のアンケートシステムは、翌年 4 月以降（平成 28 年度は 7 月）に結果が公表されていたため、アンケートから得られたデータが、次年度のシラバスに反映できず、学生から出された改善意見も、意見を述べた学生本人に改善を実感させることができない状態であった。そこで、平成 30 年度は、今までの 1 月から 2 月に行っていた授業評価アンケート

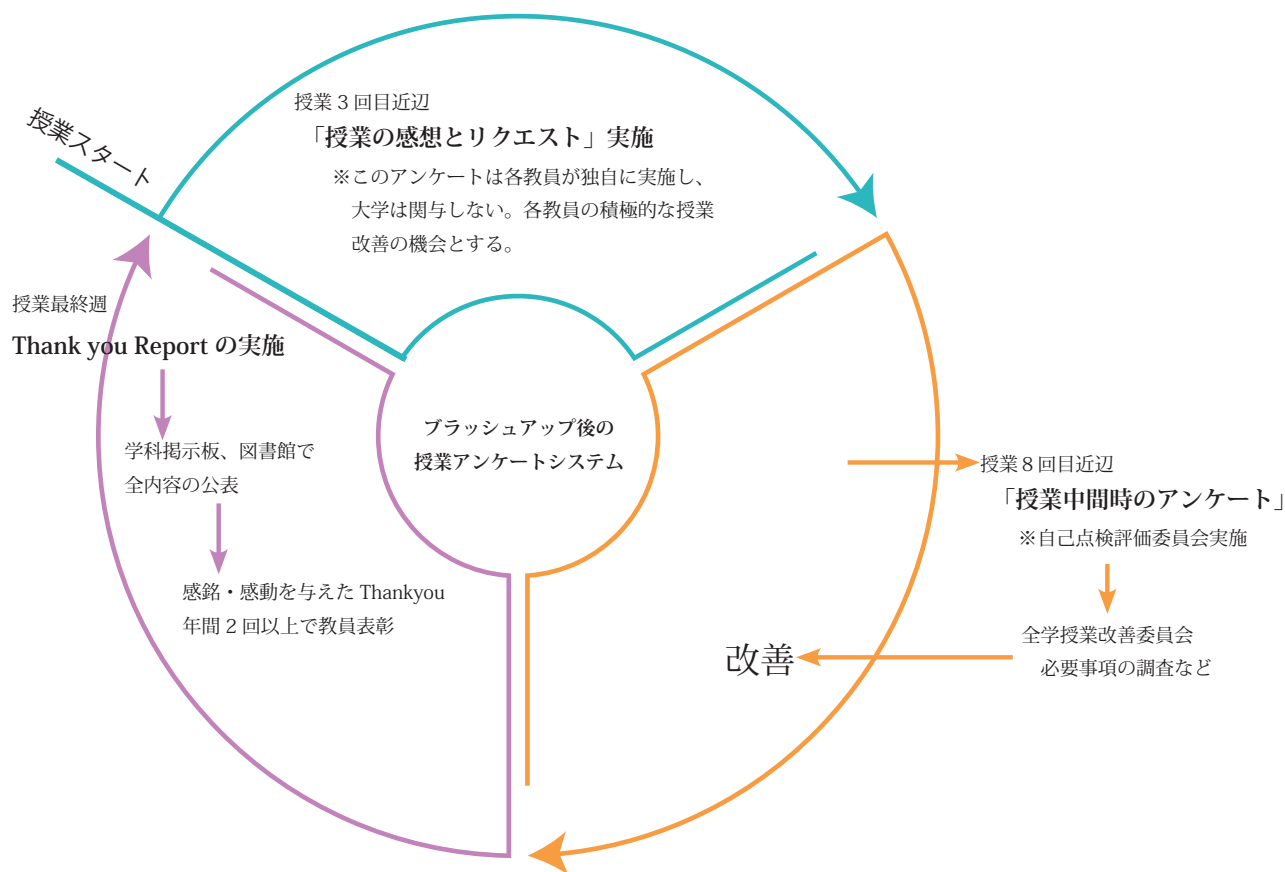


図 1 授業アンケートシステムの全体像

5月		6月		7月		8月		9月	
	実施				実施				
		集計			集計				
		結果報告			結果報告				

10月		11月		12月		1月		2月	
	実施				実施				実施
		集計			集計				集計
		結果報告			結果報告				結果報告

図 2 平成 30 年度 新授業アンケート 年間実施スケジュール



EI レター 1号

授業アンケートの様式が変わることを学内に告知するために両キャンパスに掲示と共に、説明会を実施し、学生に配布しました。

EI レター 2号

授業開始直後アンケートに託された学生たちの声は、感情的な内容や揶揄などがなく、真面目なものでした。授業改善への協力に対して、感謝の言葉を掲示しました。

図 3 Evaluation and Improvement Letter (評価と改善レター 略称 EIレター) オリジナルは A3 版

トを一新し、年間 6 回のアンケートを計画した。改善情報の収集過程において、スピーディな授業改善が実現できるよう、自己点検・評価委員会が全学授業改善委員会と連携し、改善点を収集、集計し、各教員の授業改善に反映できる情報として 2 週間以内に提供できるように実施した。その全体像は、図 1 に示したとおり、授業開始後 (3 回目程度) に 1 回目のアンケートを実施、各教員が独自に改善点を収集 (大学は関与しない)、改善を行って授業の質的向上を図ることから始まり、授業 8 回目近辺において、改善状況を確認する第 2 回目のアンケートを自己点検・評価委員会実施。大学が改善状況の把握と、更なる改善を主導した。そして、授業最終に、感銘と感動の授業を提供してくれた教員に、学生からの感謝を Thank you Report という形で集計する **改善点の発見 - 改善の実施 - 感謝・真心のエール** という 3 段階のステッ

プで、学生の生の声がかみ上げられる仕組みになっている。この3回のアンケートは、半期において実施され、年間では2クール、全6回のアンケートとなる。自己点検評価委員会は、授業アンケートの集計結果を全学授業改善委員会に報告すると共に、改善意見が出された授業の担当教員に、アンケート内容を通知、授業の改善が的確に図られるよう支援した。全学授業改善委員会は、必要に応じて学生からのヒアリングも行い、アンケート内容の重要性や緊急性を把握した。

平成30年度前期の実施状況

新方式授業アンケートは、前期は、第1回目のアンケートを実施せず、第2回目のアンケートを6月8日（金）～19日（火）に実施し、改善点を収集した。このアンケートは、新方式授業アンケートの試行に当たり、学生からの授業改善リクエストの潜在量を把握する目的で行われた。アンケート用紙は、3日間の留め置きで、意見がある場合のみ、所定の投書ポストに投函してほしい旨を、自己点検評価委員が、各学科各学年のクラスセミナーに出向いて説明して実施した。アンケート実施の前、授業アンケートが新しいシステムに変わることは、ポスターで両キャンパスに掲示、ポスターの縮小版を一人ひとりにクラスセミナーで配布し、説明と協力の依頼を行った。図3に示した Evaluation and Improvement Letter（「評価と改善レター」、略称 EI レター）は、授業アンケートや授業改善のお知らせや進捗状況、御礼など、”授業の改善で、今、何がなされているか”を学生と共有する媒体となることを目的に発行され、その第1号が、授業アンケート新システムの告知、第2号が、アンケートへの協力感謝となった。この EI レターは、平成30年度内で10号まで発行された。

6月に実施された授業開始後のアンケートは、自己点検評価委員会で集計され、総表にまとめられた。回収されたアンケートは、宮代37通、駅前39通、計76通で、本学在籍者の10%（在籍学生759名）が意見を提出したことになった。この回収結果から、授業改善を求める意見は、在学生の10%ほどが感じていると推定された。集まった意見、リクエストの内容には、感情的なものはなく、切実に授業の改善点を指摘したと見て取れた。中には、設備面や時間割へのリクエストなども含まれていたが、勉学への熱意を感じさせるものが多くを占めた。アンケート総表は、全学授業改善委員会に報告され、意見の出た授業担当者に、そのままの文面を配布、改善計画等の提出と改善の実施を依頼した。

7月には、感銘・感動を与えてくれた授業の担当者への感謝を示す、Thank You Report を実施、計198のサンキューが集まった

平成30年度後期の実施状況

新授業アンケート前期分から得た知見を生かし、後期のアンケートは、第1回目のアンケートを各教員が独自に実施し、自らに改善する形式で実施した。この「授業の感想とリクエスト」の実施期間は、授業3回目週（10月15日（月）～10月19日（金））とし、回収はクラス委員長が行うなど、学生がアンケートで不安になることがないように配慮して行うように依頼した。このアンケートは、自己点検・評価委員会が介入せず、各教員の自己点検を促がした点に

意義がある。

続く2回目のアンケートは、自己点検・評価委員会が授業8回目週（12月4日（月）～12月12日（水）本年度は10週目の実施）に実施した。このアンケートでは、21人、36通の改善リクエストが出された。前期の76通（10%）から36通（2.8%）に減ったことは、第1回目のアンケートによる授業担当教員自らの自己点検、改善が行われたことと解釈できるだろう。前期と同じように全学授業改善委員会に報告すると共に、自己点検・評価委員会から、対象教員に通知がなされた。

第3回目のアンケートである「Thank you Report」は、平成31年1月24日（木）～2月6日（木）に実施した。後期のThank you Reportは、計59サンキューが集った。

平成30年度の授業アンケート結果の全体

平成30年度は、前期、後期あわせて5回のアンケートを行い、授業改善のリクエスト（「授業中間のアンケート」）の合計数は、前期76通、後期36通、計112通になる。その学科別傾向について、図4に7分野に分類して割合を示した。集計から、福祉心理学科は、「授業技術」

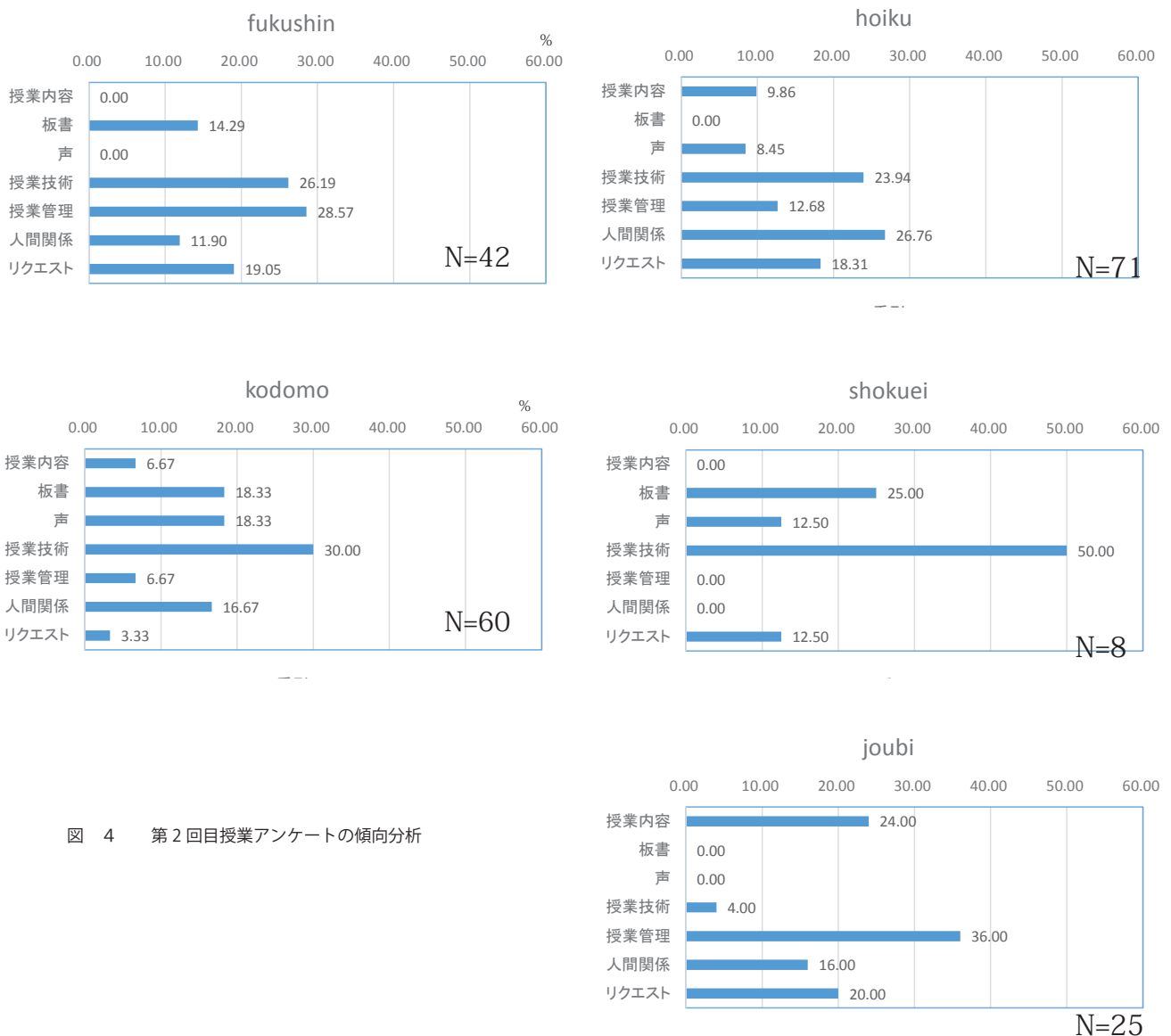


図 4 第2回目授業アンケートの傾向分析

と「授業管理」が、こども学科は、「授業技術」が、短期大学部保育学科は「授業技術」と「人間関係」、食物栄養学科は、「板書」と「授業技術」、情報ビジネス学科は、「授業内容」「授業管理」「リクエスト」のそれぞれが20%を超える学生からの指摘である。これ集計から、4学科で「授業技術」の脆弱性があるところから、次年度においては「授業に苦戦している教員」への支援の必要が示された。さらには、学科FDで取り組むべき授業改善のテーマを示唆するものであろう。

Thank you Report としてのアンケート

Thank you Report は、授業終了時に行われるアンケートで、学生が自分自身の頑張りを褒め、担当教員に感謝する「ありがとうメッセージ」のアンケートである。

前期は、39通が提出されており、①よく勉強したと思う授業には55サンキュー、②知識が深まった授業には81サンキュー、③感動した授業には62サンキューの回答だった。

後期の「Thank you Report」は、①よく勉強したと思う授業 20サンキュー、②知識が深まった授業 18サンキュー、③感動した授業 21サンキュー、計59サンキューが集まった。

学生からのありがとうメッセージは、その担当教員に配布され、今後の教育の大きな励みになる。Thank you Reportで締めくくられる新方式授業アンケートシステムは、教員のモチベーションの活性化にも貢献できるものと考え、教員の表彰で結実させた。

平成30年度のThank you Reportによる教員の表彰

平成30年度の「Thank you Report」の設問3「感動した授業、よかったと思った授業、おもしろかった授業」は、本学の教育の理念である「**感銘と感動を素直に表現できる人を育てる一つひとつの発見や驚き**が、人生に若さと新鮮さを与えてくれる、そうした人を育てる教育でありたい」に合致する授業であるとし、12名の教員を平成31年3月29日に開催した新年度初顔合わせ会の席上で表彰した。

平成30年度の授業アンケートで出された、授業以外の改善リクエストへの対応

平成30年度授業アンケートの改善リクエストは、授業内容のものだけでなく、校舎設備へのリクエストも出された。前期6月に実施されたアンケートには、授業以外の改善リクエストが17件寄せられた(p.10)。その17件は全て、駅前キャンパス福祉心理学科からのものだったので、駅前キャンパス5階事務室前に対応すること、できないことを、pp.11-12のようなポスターで告知した。

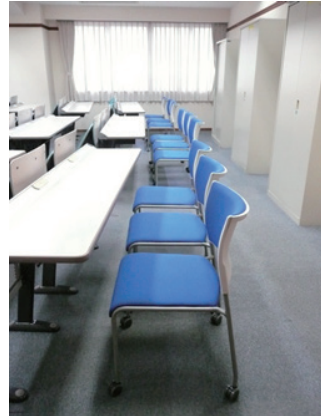
ポスターでの告知後、10月の後期授業開始時から、リクエストへの対応を開始、1、5、6階に設置されていたWiFiアクセスポイントの開放や試験スケジュールの1ヶ月前掲示、エレベータの全開放、教室設備の快適化、食事できる部屋の増設、トイレ備品の充実などを実施した。

リクエストの中には、机とイスの高さの問題も含まれていた。全学授業改善委員長の菅野英孝学院長が自ら、実際に据わって確認した不具合を、アンケートで問題となったE602とE608について、最後尾のイスを撤去、キャスター付きのイスに変更することで対応した。(写真1)。

平成31年1月に実施したThank you Reportの裏面での改善効果の調査では、「イスが痛い



E602



E608

写真1 椅子の改善を行った教室（改善後：固定椅子を取り外し、稼動椅子に交換した）

問題は解決したと思います」との”返事“があった。

一方、「学食を作ってほしい」「コンビニを作ってほしい」など、無理のあるリクエストには、きちんと論拠を示して、不可能であることを伝えた。

授業アンケート結果の公開

授業アンケートの結果は、Thank you Report の公開だけでなく、改善リクエストが出た授業についても実施した。これは、アンケートが有名無実になることを防ぐと共に、各教員の「学び続け、改善し続ける教育の姿勢」を刺激することを目的としている。

後期の第2回目アンケートへの回答は、EI レターにより、各学科掲示板に公開した（pp.13-17）。

前期、Thank you Report を公開した時、学生にサンキューされなかった教員から若干の反発があったこともたしかである。しかし、サンキューされなかったことに、なぜ動揺し、不満を持つのかを自己点検・評価委員が、じっくりと話を聞いて対応し、これからの授業改善の元気を回復してもらった。後期の公表で、不満の声、不安な嘆きは聞かれなかった。事実を受けとめ、改善で対応する文化が、早くも根付き始めた証拠だと考える。

次年度の授業アンケートの展開（むすび）

平成30年度に実施した授業アンケートは、実施上のルーチーンを検証しながらのテストパイロットだった。アンケート用紙の更新も含め、次年度への実施に準備を進める。特に、実施後集計のスピーディー化は、改善の余地がある。個票の出力までの時間短縮や、対象教員への伝達を良くすることで、さらにスピーディーな授業改善が可能と考える。また、アンケート結果を受け取る教員も、よい悪いの観点ではなく、リクエストを”どうすればさらにより授業になるかのヒント”として重視するといった姿勢で捉えてほしい。「授業に苦戦している教員」には大学からの支援を提供しなければならないと考えるし、ダメなことをしている教員にはきちんと注意も必要だ。一人ひとりがばらばらに授業を行っている時代ではなく、大学というチームでの人材育成が求められる時代であることを共有したい。

H30前期授業開始後アンケート

授業学科	授業名	担当教員名	専任/兼任/兼担	職位	所属	アンケート内容
福心	**	**				一人で食事できる部屋がほしい。高校の時に保健室で食べてたので、人がいるとうるさくて落ち着かない。
福心	**	**				各階のトイレの時計の時刻を直してほしい。毎回見てあせる。
福心	**	**				階段がきつい。福心は5、6階が多い。期未テストの教科スケジュールが出るのが遅い。
福心	**	**				机と椅子のバランスが悪くて腰がつからなくなる教室がある。売店というかコンビニが建物内にほしい。
福心	**	**				ロッカーがせまい。小さい。
福心	**	**				食事OKな教室がもう少し増えてほしいです(駅前キャンパス)
福心	**	**				スポーツ大会について、第1希望は、去年行った、こども学科との合同スポーツ大会の復活。でもどうしても無理なら全学スポ大を全員強制参加で行ってほしい。また、福心茶話会も1年生の参加人数が少なすぎて何のためにやっているのか分からなくなるから強制参加にするべき。
福心	**	**				W-Fiがほしい(駅前キャンパス) 学食がほしい(駅前キャンパス)
福心	**	**				W-Fiが駅前キャンパスにない 学食、購買も
福心	**	**				W-Fiがほしい。
福心	**	**				購買を作ってほしい。
福心	**	**				W-Fiの設置
福心	**	**				わらじまつり ダンシングそーだナイトをもっと大きな行事として扱ってほしいと思う
福心	**	**				学食 ダメもとで書きました。
福心	**	**				自動販売機に夏でもHOTを入れてほしい 女子トイレに生理用品おいといてほしい(もしくは販売機)
福心	**	**				516教室 暑い
福心	**	**				教室の中が寒い。



みなさんからのリクエストへの対応状況を報告します

6月に実施した「授業アンケート」で、福祉心理学科のみなさんから、設備等に関するリクエストをいただきました。それへの本学としての検討結果を報告いたします。よりすばらしい福島学院大学にしていくためにこれからもご協力ください。

1. 教室に関するもの

① E608教室で2コマ連続で受講するのは、身体がづらい(イスが座りづらい)

E608教室で2コマ連続となっていた「心理統計学」「認知心理学」につきましては、「心理統計学」が前期のみの開講であるため、後期は解消されると思います。来年度につきましては、時間割を編成する中で教室を変更するなど配慮します。

②教室が暑い、または寒い

教室の温度調整は、授業中でも遠慮なく教員に申し出て温度調整を行ってもらってください。なお、教員にも温度調整について配慮するよう依頼することとします。

③机と椅子のバランスが悪くて腰がつかくなる教室がある

たしかに前のめり気味となる教室があります。E608、E605、E602の教室について、春休みや来年度以降の長期休業期間に改修もしくは一部改修を順次実施いたします。

2. 昼食に関するもの

①食事OKな教室がもう少し増えてほしいです

現在1階の学生談話室(E101)、6階学生談話室兼喫茶室(E604)、小談話室(E609)、地階喫茶コーナー(2

テーブル)が食事可能場所です。その他、昼食時間のみの食事可能な教室は、E605となっています。学生生活規程を改定しE602、E603、E605を臨時的昼食場所から正式場所へ変更します。

②一人で食事できる部屋がほしい

個食希望者には、昼食は4階カウンセリング実習室(E409)の使用を認めますので、駅前キャンパス事務室(担当:佐藤志都子主任)に申し出てください。

③学食、購買、コンビニが建物内にほしい

この件について検討しましたが、学食の設置は、宮代キャンパス学食の場合も弁当持参が多く、また採算に合わず大学の補助金により運営されている現状です。学食を運営しているミスタースタミナに駅前キャンパスに売店の設置を依頼する場合も、販売用の部屋と業務用の大型冷蔵庫や電子レンジ、防火、防災機器の設置が必要です。また、仕入れ数が300食程度以上が必要となります。そのため、学生のみなさんが求めるコンビニよりも安価での提供は困難です。是非、近くの既存のコンビニやパン屋さんの利用をお願いします。

なお、本駅前キャンパスの13号国道向かいにまもなく着工される、県立医科大学保健科学部(仮称、平成33年度開学、地上8階建て、総定員580人)の学食利用の可能性をお聞きしましたが、学食は設置しないとのことでした。

④自動販売機に夏でも HOT を入れてほしい

1階と6階の自販機に、10月からHOTのものを入れることとし、自販機設置会社に依頼しました。

3, Wi-Fi について

① Wi-Fi を設置してほしい

現在、既にLANが設置してある1, 5, 6階でのWiFi利用は可能です。学生利用のためのIDとパスワードの説明会を10月上旬に行います。

LAN未設置の2~4階につきましては、9月中旬にLAN設備工事を行う予定です。10月中には供用できるようにします。

4, 行事に関するもの

①こども学科との合同スポーツ大会について

こども学科のスポーツ大会は、昨年度から教育実習への準備として幼稚園等の運動会形式を意識した種目を多く取り入れるなどしており、学科の単独開催としたい意向です。

②学科のスポーツ大会を強制参加とすることについて

この件は、福祉心理学科学友会と協議の上、結論を出したいと思います。

③福祉心理学科茶話会への強制参加について

福祉心理学科科内会議において検討し、結論を出したいと思います。

④わらじまつり ダンシングソーダナイトについて

祭りに多くの学生が参加するよう、学友会を中心として、一般学生の方にも参加を呼びかけていきます。学生の皆さんも、お互いに誘い合って祭りに参加し大いに盛り上げてください。学科としましても、大事な行事として、教員も全面的に協力していきます。

5, 教務に関するもの

①試験のスケジュールが出るのが遅い

1週間前に発表しておりましたが、1ヶ月前までには発表するようにします

6, 施設・設備について

①階段がきつい。福心は5, 6階が多い

エレベーター2基のうち、心理臨床相談センター利用者及び来客用としていた1基についても、その表示をはずし、平成30年10月1日より皆さんの利用に供します。

②ロッカーがせまい。小さい

現状を把握したうえで対応を考えたいと思います。ロッカーが小さいと思われる方は、詳しくお話を聞きしたいので事務室(担当:佐藤志都子主任)までおいで下さい。

7, トイレに関するもの

①各階のトイレの時計の時刻を直してほしい。毎回見てあせる

時計の時刻につきましては、修正を行いました。今後は定期的に時刻のチェックを行っていきます。

なお、トイレの時計に依存しすぎないよう自分なりの対策を考えてください。

②女子トイレに生理用品を置いてほしい(もしくは販売機)

本学として実験的に10月から、4, 5階の女子トイレの洗面台の一角に籠ないしは箱を配置し、無料で供用します。もし、本学女子トイレのみで利用されることが確認できれば、継続して設置します。





自己点検・評価委員会と授業改善委員会からの報告

後期授業アンケート（第2回）結果報告

大学院・福祉心理科

- 平成30年12月上旬に後期授業アンケート（第2回）を行いました。以下、アンケートでのリクエストについて検討状況を報告します。ご協力ありがとうございました。
1. 大学院科目、および「子どもの心理」について各1件の意見がありました。担当教員に改善を依頼しています。
 2. 「育児ストレス」に2件の意見がありました。担当教員に改善を依頼しました。なお、31年度入学生より教育課程の改正を行いますのでこの授業科目は本年限りとなります。
 3. 「国語表現」について「ただ教科書を読み続けるだけの授業はやめていただきたい」等の厳しい意見がありました。本学の教員授業実施規程に反しますので、担当教員に改善を依頼しました。31年度入学生からは「文章表現」と授業名称は変わりますが、よりアクティブラーニング授業となるよう新しいシラバスの作製も依頼しています。
 4. 「食生活と健康」については、次年度

から担当教員が変更になります。

5. その他5件の意見がありました。本学として改善の検討を行っています。なお、国家試験受験資格取得にかかる授業上の意見については、精査中です。他の学生への意見聴取も検討中です。今回のアンケートにおいても、伝聞での意見がありました。伝聞ではなく、実際に自分が経験したものに於いて回答ください。また、学外実習への履修制限のあり方も、現状で妥当か否か、本学の評価にも係りますので、検討します。

以上

全学授業改善委員会

委員長 菅野英孝

自己点検・評価委員会

委員長 梅宮れいか

※教育課程の改正は、平成31年度入学生からです。
現在、在学しているみなさんの教育課程は変わりません。



自己点検・評価委員会と授業改善委員会からの報告

後期授業アンケート（第2回）結果報告

こども学科

平成30年12月上旬に後期授業アンケート（第2回）を行いました。以下、アンケートでのリクエストについて検討状況を報告します。ご協力ありがとうございました。

1. 「創作ミュージカル」（4年次に開講）について「3年次開講だと心にゆとりができると思う」との意見がありましたので、こども学科に、31年度から3～4年次開講として、3年次でも履修できるように検討を依頼しました。

2. 同じく「創作ミュージカル」で「出欠は最初にとってほしい」との意見がありました。当然のことですので、担当教員にそのように改善を依頼しました。

以上

全学授業改善委員会

委員長 菅野英孝

自己点検・評価委員会

委員長 梅宮れいか



自己点検・評価委員会と授業改善委員会からの報告

後期授業アンケート (第2回) 結果報告

保育学科

平成30年12月上旬に後期授業アンケート(第2回)を行いました。以下、アンケートでのリクエストについて検討状況を報告します。ご協力ありがとうございました。

1. 「生活と安全」について「女子学生のことを『くん』付けて呼んでくるのはやめてほしい」との意見がありました。今後、女子学生を「くん」付けて呼ぶことについては、教職員と学生間における差別とハラスメント防止委員会(委員長、学生部長)による検討を依頼します。なお、次年度からの教職免許法及び同法施行規則、ならびに保育所指針の改正に伴い、教育課程の抜本的改正も行いますので、「生活安全」科目は今年限りとなります。

2. 「女性と保健」について「教科書のどこをやっているか教えてほしい。スライドをゆっくりしてほしい」との意見がありました。このことは担当教員に改善を依頼してあります。なお、1.と同様教育課程の改正により、この科目も今年限りとなります。

3. 「国語表現」についても3件の意見がありました。この授業も31年度から「会話表現」「会話演習」(共に、1年次必修)と分け、授業担当者も変更となります。

4. 「英会話I」については、3件の意見があり

ました。担当教員に改善を依頼すると共に、保育学科授業改善委員会に改善のための検討を依頼しました。

5. 「障害児保育」については、2件の意見がありました。前回アンケートでも問題が指摘されておりますが、対応がまだ充分ではなかったと思います。来年度は新たな教員が担当する予定です。

6. 「幼児体育」については3件の意見が寄せられました。担当教員に改善を依頼しました。なお、前述のとおり、31年度からの教育課程の抜本的改正に伴い、「幼児体育」科目はなくなります。ただし、現教育課程が適用される保育学科2年CDクラスについては、新たな教員が担当する予定です。

7. 「日本国憲法」については「授業中スマホを使用してよいことになっていますが・・・」とのことについて、問題の指摘がありました。スマホの使用は、授業として必要とされる以外は、本学ではこれを禁止していただきます。担当教員(非常勤)に学科長より申し入れることとします。

以上

全志学授業改善委員会

委員長 菅野英孝

自己点検・評価委員会

委員長 梅宮れいか

※教育課程の抜本改正は、平成31年度入学生からです。
現在、在学しているみなさんの教育課程は変わりません。



自己点検・評価委員会と授業改善委員会からの報告

後期授業アンケート（第2回）結果報告

食物栄養学科



平成30年12月上旬に後期授業アンケート（第2回）を行いました。以下、アンケートでのリクエストについて検討状況を報告します。ご協力ありがとうございました。

1. 「食品学各論実験」について「実験が食のどのようなところにつながっているのか教えてもらいながら授業をしてほしい」との意見については担当教員によりわかりやすく説明するよう依頼しました。

2. 「栄養学各論実習」について「パワーポイントが動かないと空欄のところかわからないままになるので教務課の人を呼ぶなどの対応をしてほしい」との意見がありました。この件について担当教員にパワーポイントの使用法の適切性を含めて打ち合わせをいたします。

3. 「生化学実験」について「私自身の知識不足が原因かもしれませんが、少し説明が理解しにくい所があるので、もう少し詳しく説明してほしいです」との意見が

ありましたので、学科として既に改善策を検討しております。

4. 「運動生理学」について「先生の声が大きすぎて聞きづらい。声のボリュームを落とすか、歩きながら話すなどしてほしい」との意見がありましたので、担当教員に改善を依頼しました。

以上

全学授業改善委員会

委員長 菅野英孝

自己点検・評価委員会

委員長 梅宮れいか



自己点検・評価委員会と授業改善委員会からの報告

後期授業アンケート（第2回）結果報告

情報ビジネス学科

今回のアンケートでは、リクエストがありませんでした。
皆さんの協力、ありがとうございました。

以上

全学授業改善委員会

委員長 菅野英孝

自己点検・評価委員会

委員長 梅宮れいか

平成 30 年度 学生の授業外における学習時間・学習行動 アンケート調査および今後の改善方策

学 長 小松 由美

1. 調査目的

本学の学生が、卒業までに獲得すべき学習成果の達成には、授業への出席のみならず、授業外での学習が前提になっている。また、文部科学省が標榜する単位の実質化のためにも授業時間外での学修時間の確保が必要である。

授業外の学修実態を知り、適切な学修行動の実現に向け指導をすることが重要となる。2018 年度は、学生の授業外における学修時間・学修行動についてアンケート調査を試みた。

2. アンケートの実施

対 象：福祉学部・短期大学部の全学科学生（22 クラス）

実施時期：2018 年 9 月 25 日～10 月 8 日

回答方法：スマートフォン上の Web ページから回答

回 答 率：81.2%（742 名中 588 名回答）

【設 問】

1 学修時間に関する質問

- (1) 授業で出された課題、宿題、レポート作成等のための自習時間は、1 週間で何時間ですか。
- (2) 上記（1）以外の、授業のための自発的な予習・復習の時間は 1 週間で何時間ですか。
- (3) 授業とは関係のない、自分の興味・関心や資格取得の学習の時間は 1 週間で何時間ですか。

<各設問の回答選択肢>

- 30分未満
- 30分～1時間未満
- 1時間～2時間未満
- 2時間～3時間未満
- 3時間～5時間未満
- 5時間～10時間未満
- 10時間以上

2 学修行動に関する質問

(1) 授業を理解するためにどのような努力をしましたか。(複数回答可)

- 先生に質問した
- ノートや配付資料を復習した
- インターネットで検索した
- 参考書を買って調べた
- 図書館で文献を調べた
- 友達と話して理解するようにした
- 何もしなかった

(2) 自習をするにあたり、よく使う場所はどこですか。(複数回答可)

- 学内図書館
- パソコン室
- 学生ラウンジ
- 学生食堂
- 自宅
- 友人宅
- その他

(3) 教員への質問や相談にオフィスアワーを利用したことがありますか。

- 利用したことがある
- 利用したことはないが知っている
- オフィスアワー以外を利用したことがある
- オフィスアワーのことを知らない

3. 結果グラフ

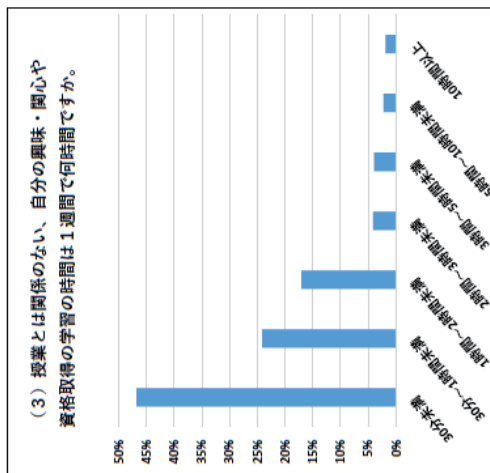
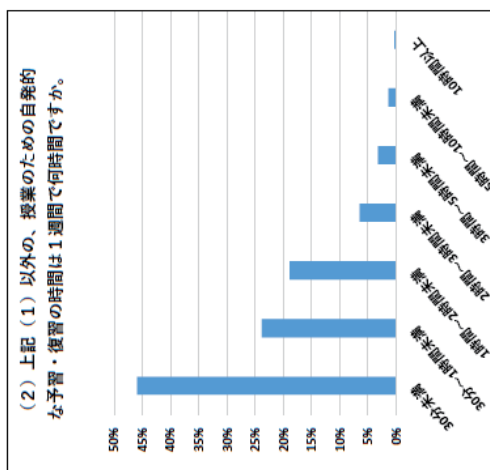
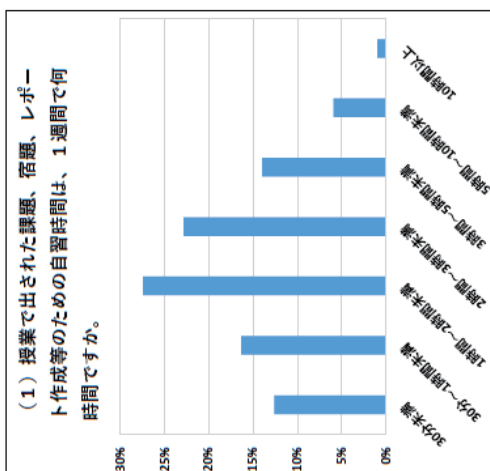
授業外の学修時間および学修行動に関する集計結果グラフを示す。

授業外学修時間・学修行動アンケートまとめ

学科	法学部・法学科
学年	1年生
クラス	—
受講者数	724
回答者数	588 (81.2%)
調査日	2018/9/26

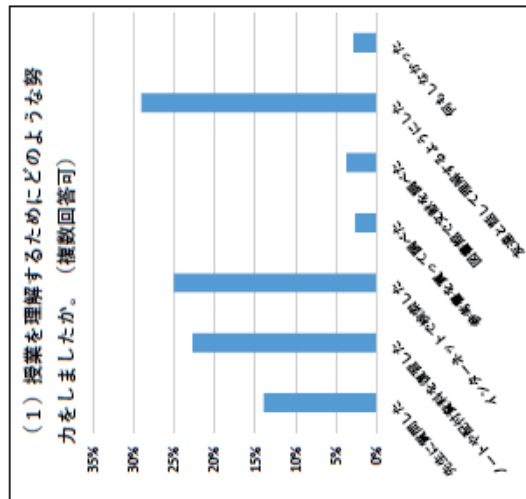
1. 授業外の学修時間に関する質問

	(1) 授業で出された課題、宿題、レポート作成等のための自習時間は、1週間で何時間ですか。	(2) 上記(1)以外の、授業のための自習時間、予習・復習の時間は、1週間で何時間ですか。	(3) 授業とは関係のない、自分の興味・関心や資格取得の学習の時間は、1週間で何時間ですか。
30分未満	12.6%	45.9%	46.8%
30分～1時間未満	16.3%	23.8%	24.1%
1時間～2時間未満	27.4%	18.9%	17.0%
2時間～3時間未満	22.8%	6.5%	4.1%
3時間～4時間未満	13.9%	3.2%	3.9%
4時間～10時間未満	6.0%	1.4%	2.2%
10時間以上	1.0%	0.8%	1.9%

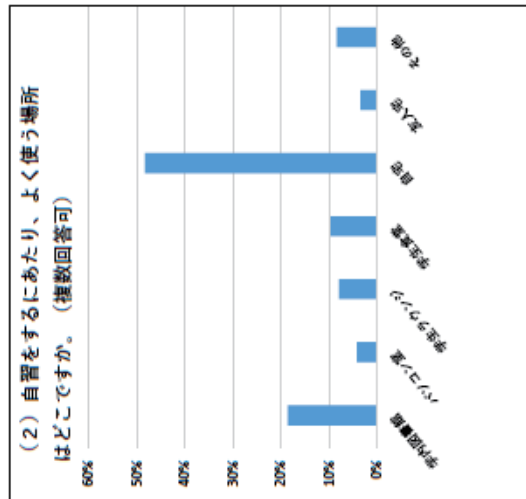


2. 学修行動に関する質問

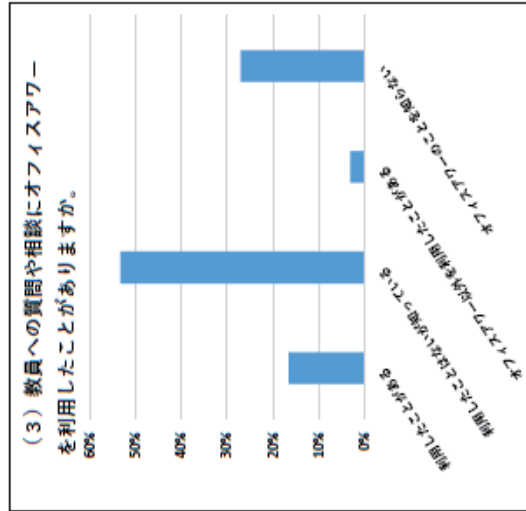
(1) 授業を理解するためにどのような努力をしましたか。(複数回答可)	割合
先生に質問した	13.9%
ノートや配布資料を復習した	22.8%
インターネットで検索した	25.1%
参考書を買って調べた	2.6%
友達と文章を比べた	3.7%
友達と話し合いで理解するようになった	29.1%
問ちしあひかった	2.8%



(2) 自習をするにあたり、よく使う場所はどこですか。(複数回答可)	割合
学内図書館	18.6%
パソコン室	4.3%
学生ラウンジ	7.8%
学生食堂	9.6%
自室	45.5%
友人宅	3.5%
その他	8.3%



(3) 教員への質問や相談にオフィスアワーを利用したことがありますか。	割合
利用したことがある	16.6%
利用したことはないが知っている	83.4%
オフィスアワー以外で利用したことがある	3.1%
オフィスアワーのこと各知らない	27.0%



福祉学部・短期大学部別アンケート結果

1. 授業外の学修時間に関する質問

設問1 授業で出された課題、宿題、レポート作成等のための自習時間は、1週間で何時間ですか。

	福祉学部	短期大学部
30分未満	10.9%	13.8%
30分～1時間未満	13.3%	18.5%
1時間～2時間未満	26.2%	28.2%
2時間～3時間未満	25.0%	21.2%
3時間～5時間未満	14.9%	13.2%
5時間～10時間未満	8.1%	4.4%
10時間以上	1.6%	0.6%

設問2 上記(1)以外の、授業のための自発的な予習・復習の時間は1週間で何時間ですか。

	福祉学部	短期大学部
30分未満	42.3%	48.5%
30分～1時間未満	28.6%	20.3%
1時間～2時間未満	19.4%	18.5%
2時間～3時間未満	6.0%	6.8%
3時間～5時間未満	2.8%	3.5%
5時間～10時間未満	0.0%	2.4%
10時間以上	0.8%	0.0%

設問3 授業とは関係のない、自分の興味・関心や資格取得の学習の時間は1週間で何時間ですか？

	福祉学部	短期大学部
30分未満	46.0%	47.4%
30分～1時間未満	23.4%	24.7%
1時間～2時間未満	17.3%	16.8%
2時間～3時間未満	3.6%	4.4%
3時間～5時間未満	4.0%	3.8%
5時間～10時間未満	2.4%	2.1%
10時間以上	3.2%	0.9%

2. 学修行動に関する質問

設問1 授業を理解するためにどのような努力をしましたか（複数回答可）

	福祉学部	短期大学部
先生に質問した	12.9%	14.8%
ノートや配布資料を復習した	22.3%	23.1%
インターネットで検索した	25.5%	24.7%
参考書を買って調べた	3.3%	2.0%
図書館で文献を調べた	6.5%	1.3%
友達と話して理解するようにした	26.6%	31.2%
何もしなかった	2.9%	2.8%

設問2 自習をするにあたり、よく使う場所はどこですか（複数回答可）

	福祉学部	短期大学部
学内図書館	24.0%	13.6%
パソコン室	4.1%	4.1%
学生ラウンジ	8.8%	7.0%
学生食堂	9.2%	9.9%
自宅	43.0%	53.0%
友人宅	2.7%	3.9%
その他	8.2%	8.4%

設問3 教員への質問や相談にオフィスアワーを利用したことがありますか

	福祉学部	短期大学部
利用したことがある	23.8%	11.2%
利用したことはないが知っている	58.5%	49.7%
オフィスアワー以外を利用したことがある	3.2%	2.9%
オフィスアワーのことを知らない	14.5%	36.2%

4. 調査結果から読み取れる傾向と今後の改善方策

2018年度の傾向

- (1) 授業課題、宿題をこなすことが中心で、学修時間は、授業課題と自発的な予習復習を合わせても週3時間未満程度である。
- (2) 学修方法や理解方法としては、教員への質問は少なく、インターネットの利用や友人とのやりとりが中心である。
- (3) 学修場所は、自宅を中心にしている学生が多いが、福祉学部の学生は学内図書館を比較的良好に利用している。
- (4) オフィスアワーは「利用したことはないが知っている」という学生が多い。短期大学部では「オフィスアワーを知らない」学生が多い。

2019年度方策

- (1) 次年度シラバスに、授業外学修の内容を詳しく記載する。
【平成31年度シラバス記入要領】の改善点
授業時間以外の必要な学修時間
 - ◆ 授業形態と単位数から授業時間以外の必要な学修時間を記載してください。
 - ◆ 単位制度の実質化を進めるために、授業時間外の学修を学生に課す必要がありますので、準備学修（予習・復習等）の具体的な内容とそれに必要な時間を記述してください。【教員授業実施規程】の改善点
第11条 教員は自らのシラバスをもとに、授業を実施するものとします。特に事前に指定した予習については授業の中に、意見発表やディスカッションを必ず取り入れて下さい。
- (2) オフィスアワーの存在、目的を周知徹底する。また、その他の時間も含め学生とのコンタクト増加を図り、学修面、生活面での支援に活用する。
- (3) 学修場所としては、自宅が中心になっているが、勉学に集中しやすく、かつインターネット利用がしやすい学内図書館、パソコン室、学生ラウンジ、学生食堂などの充実を図り、その利用を促進する。

第2章

平成30年度 監事・監査報告

監事報告（第30年度授業参観所見）

監事（教学担当） 中島 真澄

平成30年度授業参観監査報告

監査役 佐藤 資治

平成31年3月31日

監事報告書（第30年度授業参観所見）

監 事 中島 真澄

「教員授業実施規定」第25条は、『感銘と感動を与え、知的好奇心を喚起する授業』の実現と教育水準の向上を目的とする自己点検のため、監事が適宜教員の授業参観を行い、その所見について意見書をもって当該教員に報告するもの」としている。また、「教員授業実施規定」第24条では、学生による授業評価や改善意見書を参考として、授業の点検評価を行い、必要な改善を行うものとされている。本職は、授業参観が教員の自己点検として有効に用いられて、授業が改善され、結果として本学の建学の精神に基づいた教育の実現として成果が上がっているのかを検証する必要がある、授業参観を実施した。本監事および監査役から提出された授業参観所見はすでに提出されているので、本報告書ではその後のフォローアップを含めて授業改善について包括的な所見を示すこととする。

授業参観の目的は、教員個別の授業の品質を担保し、向上させることだけではなく、教員の総和である本学の教育の質を向上させることによって本学への志願者を増加させることである。本学の授業自体は、「教員授業実施規定」とそれに対応する「学生受講規定」に準拠して実施されるように制定されている。「教員授業実施規定」第2条は、次のように規定している：

本学は、学院創立者の信念である『真心こそすべてのすべて』という建学の精神に基づき、教員は、Sincerity（真心）とHospitality（思いやり）をその教育の根本におき、学生に広く知識を授けるとともに、知的、道徳的および応用的能力を展開すること、および『学生に感銘と感動を与え、知的好奇心を喚起する授業』の実現を教育方針としている。

教員および学生がともに、「教員授業実施規定」および「学生受講規定」を遵守することができれば、おのずと本学の建学の精神に相応しい授業となることは必然で

あるが、自己評価だけではなく、客観的視な評価が授業の改善に必要不可欠である。授業参観自体は、実施しただけでは授業改善にはつなげることは難しい。この授業参観結果をPDCAのプロセスに乗せてはじめて、授業改善が実現可能となる。監事および監査役の所見は学長に提出され、学科ごとに取りまとめられ、被参観教員の参観意見書を学長が学科長に手渡す。学科長は該当教員を呼び、参観意見書を渡すことになっている。特別に改善を要するときは当該教員に報告を求めるが、そのような重大な意見ではないと判断すれば伝えただけとなる。

最も重要なこととしては、被参観教員が、提示された意見をどのように受け止め、改善をしようと考えているのか、そしてその後どのように授業の質向上のために工夫をしたのかについて、本職には何も文書でも口頭でも報告がなかった。理事会において学長自身が、「学科長にお渡しした」と発言しているので、被参観教員に授業参観結果を提示されたことは事実であろう。しかしながら、学長は、伝えたことによる被参観教員の反応も意見を明らかにしなかった。監事および監査による授業参観結果について課題を洗い出し、それを教員に伝え、授業の改善に導くというPDCAサイクルは構築されていなかったと言わざるを得ない。監事および監査役による授業参観は、結論として一方通行の意見伝達に終わってしまっていたのである。

本年度の監査項目（平成29年10月14日理事会承認）の学長に関する監査項目のなかに、「授業参観制度の活用による魅力ある授業の維持、もしくは改善と適切なシラバスの維持、もしくは改善にリーダーシップを発揮していること」がある。学長は、教学のトップとして授業改善をする責務があるが、監査結果としては、学長によるPDCAの改革サイクルが構築されておらず、学長による教学のリーダーシップが十分に発揮されていなかったと指摘せざるを得なかった。すなわち、学長業務遂行者として適格性が欠如しているといえる。

本学の教員は、教育において広い視野で専門領域の学識と高度専門的職業を担うためのスキルを授けることを目的している。教育現場で学生を導く教員に必要なものは、高度な研究に裏付けされた専門知識、教育のための技術、そして何よりも建学の精神に依拠した学生に対する真心のこもった愛情の3つである。当該教育方針の実現を達成するためには、地道な努力および自己統制が求められるのである。本学教員は、学生に対して真心を込め、専門知識とスキルをもって業務を遂行することにより、結果として本学の教育の質向上とつながる。本職は、授業改善を中心に、教学の監査を行ってきた。本学にとって、建学の精神に基づいた良質な授業の保証こそが最も重要である。本学においては、教学のリーダーシップ強化を図る体制を早急に確立することを提言としたい。

平成 31 年 1 月 10 日

平成 30 年度「授業参観」 監査報告

監査役 佐藤 資治

平成 30 年度の授業参観は、採用後 3 年以内の教員と昨年度の授業参観で授業の方法等について提言した教員を対象に、福祉学部「福祉心理学科」：3 コマ、「こども学科」：2 コマ、短期大学部「保育学科」：6 コマ、「食物栄養学科」：4 コマ、「情報ビジネス学科」：5 コマ、併せて 20 コマ実施した。

平成 30 年度「授業参観」状況

	教授	准教授	講師	非常勤講師	非常勤助教		計
福祉学部 福祉心理学科		1	1	1			3
こども学科			1	1			2
短期大学部 保育学科		1	3	1	1		6
食物栄養学科			1	3			4
情報 ビジネス学科	1			4			5
計	1	2	6	10	1		20

◇授業参観の概要

(教員授業実施規程に定める事項を遵守して実施されているか)

- ①授業開始前 ②授業の開始時 ③授業の内容（方法）④授業の終了時

1. 授業の開始前

◇教員の入室時間

① 30分前 (2コマ)

- ・福祉学部「こども学科」 1 (専任教員)
- ・短期大学部「食物栄養学科」 1 (非常勤教員)

② 25分前 (1コマ)

- ・短期大学部「保育学科」 1 (専任教員)

③ 15分前 (3コマ)

- ・福祉学部「こども学科」 1 (非常勤教員)
- ・短期大学部「保育学科」 1 (専任教員)
- 「情報ビジネス学科」 1 (非常勤教員)

④ 10分前 (9コマ)

- ・福祉学部「福祉心理学科」 1 (非常勤教員)
- ・短期大学部「保育学科」 3 (専任教員 : 1)
(非常勤教員 : 2)
- 「食物栄養学科」 2 (専任教員 : 1)
(非常勤教員 : 1)
- 「情報ビジネス学科」 3 (非常勤教員)

⑤ 5分前入室 (3コマ)

- ・短期大学部「保育学科」 1 (専任教員)
- 「食物栄養学科」 1 (非常勤教員)
- 「情報ビジネス学科」 1 (専任教員)

⑥ 3分前入室 (1コマ)

- ・福祉学部「福祉心理学科」 1 (専任教員)

⑦ 授業開始時入室 (1コマ)

- ・福祉学部「福祉心理学科」 1 (専任教員)

2. 授業の開始時

◇教員と履修生の挨拶

① 起立挨拶 (11コマ)

- ・福祉学部「福祉心理学科」 1 (非常勤教員)
- 「こども学科」 1 (専任教員)
- ・短期大学部「保育学科」 3 (専任教員 : 1)
- 「食物栄養学科」 3 (専任教員 : 1)
非常勤教員 : 2)

	「情報ビジネス学科」	3 (専任教員 : 1 非常勤教員 : 2)
②着席挨拶 (3 コマ)		
	・福祉学部「こども学科」	1 (非常勤教員)
	・短期大学部「保育学科」	1 (非常勤教員)
	「情報ビジネス学科」	1 (非常勤講師)
③挨拶なし (6 コマ)		
	・福祉学部「福祉心理学科」	2 (専任教員 : 2)
	・短期大学部「保育学科」	2 (専任教員 : 1 非常勤教員 : 1)
	「食物栄養学科」	1 (非常勤教員)
	「情報ビジネス学科」	1 (非常勤教員)

◇出席確認方法

👉 授業開始時

①「点呼確認」(13 コマ)		
	・福祉学部「福祉心理学科」	1 (専任教員 : 1)
	・短期大学部「保育学科」	5 (専任教員 : 4 非常勤教員 : 1)
	「食物栄養学科」	3 (専任教員 : 1 非常勤教員 : 2)
	「情報ビジネス学科」	4 (専任教員 : 1 非常勤教員 : 3)
②「指定席確認」(6 コマ)		
	・福祉学部「福祉心理学科」	2 (専任教員 : 1 非常勤教員 : 1)
	「こども学科」	2 (専任教員 : 1 非常勤教員 : 1)
	・短期大学部「保育学科」	1 (非常勤教員)
	「食物栄養学科」	1 (非常勤教員)
③授業開始時「小テスト」(採点)返却時、出欠確認 (1 コマ)		
	・短期大学部「情報ビジネス学科」	1 (非常勤教員)
④授業中「点呼確認」(1 コマ)		
	・福祉学部「福祉心理学科」	1 (非常勤教員)

3. 授業形態・教材 等

- ◇「講義」(8コマ)
 - 👉プリント、教科書、パワーポイント(1コマ)
 - ・短期大学部「食物栄養学科」 1 (専任教員)
 - 👉プリント、パワーポイント(6コマ)
 - ・福祉学部「福祉心理学科」 3 (専任教員 : 2、
非常勤教員 : 1)
 - ・短期大学部「保育学科」 1 (専任教員)
 - 「食物栄養学科」 1 (非常勤教員)
 - 「情報ビジネス学科」 1 (非常勤教員)
 - 👉プリント(1コマ)
 - ・短期大学部「保育学科」 1 (非常勤教員)

- ◇「講義・演習」(2コマ)
 - 👉プリント、教科書、パワーポイント(1コマ)
 - ・短期大学部「食物栄養学科」 1 (非常勤教員)
 - 👉プリント、教科書(1コマ)
 - ・短期大学部「情報ビジネス学科」 1 (専任教員)

- ◇「演習」(8コマ)
 - 👉プリント、教科書、パワーポイント(1コマ)
 - ・福祉学部「こども学科」 1 (専任教員)
 - 👉プリント、パワーポイント(1コマ)
 - ・短期大学部「保育学科」 1 (専任教員)
 - 👉プリント、板書、小児の人形・計測機器等(1コマ)
 - ・福祉学部「こども学科」 1 (非常勤教員)
 - 👉プリント、DVD, パワーポイント(1コマ)
 - ・短期大学部「保育学科」 1 (非常勤教員)
 - 👉教科書、プリント(2コマ)
 - ・短期大学部「保育学科」 1 (専任教員)
 - 「情報ビジネス学科」 1 (非常勤教員)
 - 👉プリント、板書(2コマ)
 - ・短期大学部「情報ビジネス学科」 2 (非常勤教員)

◇体育実技（2コマ）

👉 バレーボール（1コマ）

・短期大学部「保育学科」 1（専任教員）

👉 卓球（1コマ）

・短期大学部「食物栄養学科」 1（非常勤教員）

4. 授業の終了時

◇授業終了時間

①5分前終了（1コマ）

・短期大学部「情報ビジネス学科」 1（非常勤教員）

②定刻終了（16コマ）

・福祉学部「福祉心理学科」 3（専任教員：2
非常勤教員：1）

「こども学科」 2（専任教員：1
非常勤教員：1）

・短期大学部「保育学科」 4（専任教員：1
非常勤教員：3）

「食物栄養学科」 4（専任教員：1
非常勤教員：3）

「情報ビジネス学科」 3（専任教員：1
非常勤教員：2）

③定刻オーバー（3コマ）

・講義中にチャイムが鳴る

・短期大学部「保育学科」 1（兼任専任教員）

・「2分」オーバー

・短期大学部「保育学科」 1（非常勤教員）

「情報ビジネス学科」 1（非常勤教員）

◇教員と履修生の挨拶

①起立挨拶（11コマ）

・福祉学部「福祉心理学科」 1（非常勤教員）

「こども学科」 2（専任教員：1
非常勤教員：1）

・短期大学部「保育学科」 2（専任教員：2）

	「食物栄養学科」	3 (専任教員 : 1 非常勤教員 : 2)
	「情報ビジネス学科」	3 (専任教員 : 1 非常勤教員 : 2)
②着席挨拶 (履修生) (1 コマ)		
	・短期大学部「情報ビジネス学科」	1 (非常勤教員)
③教員のみ挨拶 (8 コマ)		
	・福祉学部「福祉心理学科」	2 (専任教師)
	・短期大学部「保育学科」	3 (専任教員 : 1 非常勤教員 : 2)
	「食物栄養学科」	2 (非常勤教員)
	「情報ビジネス学科」	1 (非常勤教員)

[提言]

◇教員授業実施規程に定める事項を遵守して、授業を実施する。

1. 授業開始時間と授業終了時間を遵守する。
2. 出欠の確認は、授業開始時に行う。
3. 授業中の居眠り、無断入室、無断退室の履修生にその都度、マナーについて指導する。また、授業に集中できる環境づくりに配慮する。

4、魅力ある授業の実施

①ツーン・ウェイ方式の授業展開

講義一辺倒ではなく、履修生とのコミュニケーションを図る。内容にもよるが、パワーポイント、プリント、教科書等を読ませる、質問する、感想を聞く、寸評等、時間を適宜配分して授業展開に変化をつける。

履修生を名簿順に指名して起立のうえ対応させる。緊張感を持たせる。

②話し方に変化をつける

終始、同じテンポの講義、話し方は単調で居眠りを誘発していた。内容にもよるが、声の出し方、話し方（ポーズをとる）等、変化をつける。また、マイク使用時は、音量に配慮する。

③教材（パワーポイント、プリント等）は、簡潔にして読みやすくする、見やすくする。

[パワーポイント]

画面一杯の小さな文字・図表等は、読みにくい、見にくい。

簡潔にして大きめの文字、図表にして読みやすく、見やすくする。

[プリント]

簡潔にして読みやすくする、見やすくする。参考書からのプリントの小さい文字は、読みにくい。内容を簡潔にして大きい文字で読みやすく理解しやすくする。小さい図表も大きくして見やすくする。

[板書]

簡潔にして、文字は大きく書いて読みやすくする。図表も大きく書いて見やすくする。鮮明な色のチョークを使用する

[DVD／VTR]

短時間（10分～15分）にして集中させる。飽きさせないようにする。

- ・ 教員授業実施規程 第 2 条（本学の教育方針）
- 第 6 条（授業時間遵守義務）
- 第 1 2 条（出席の確認方法）
- 第 1 4 条（魅力ある授業の実施）
- 第 1 6 条（禁止する授業の形態）
- 第 2 1 条（授業妨害への対処） 参照。

以上

第3章

平成30年度 教育運営計画 実施報告と自己点検

大学院心理学研究科 臨床心理学専攻
こども心理専攻

福祉学部 福祉心理学科
こども学科

短期大学部 保育学科
食物栄養学科
情報ビジネス学科

本報告は、平成31年3月25日現在での内容

評価は

- 5 (達成できた)
- 4 (おおむね達成できた)
- 3 (ある程度達成できた)
- 2 (あまり達成できなかった)
- 1 (達成できなかった)

を基準に各学科の代表者が行ったもの。

大学院心理学研究科臨床心理学専攻

研究科長・教授 星野 仁彦

1. 記載事項の実施に関する報告と評価

H30 年度計画事項	H30 年度実施状況	評価 (5段階)
1. 臨床実践能力の育成 1) 質の高い実習環境	1) 実習指導からの示唆 実習日誌そのものの分析を意図していたが、それ以前に実習時の事前指導に苦勞をした。公認心理師としての学びを得るための態度、視点について丁寧にディスカッションしていく必要性について実習担当教員内で共有した。	4
2) 研究環境の充実 統計ソフトの更新	2) ソフト更新→無料ツールの活用 当初上記の通り、既存の有料統計ソフトを最新版に更新するために予算化していたが、“R”や“HAD”といったような無料のツールを活用する方向性に方針転換した。最新の統計ツールの提供と予算執行の削減の両面から、よい方策を実施できた。	5
3) 研究発表促進	3) 目標値に遠くおよびず 大学院生の学会発表は2件にとどまった。目標値15件には遠く及ばない結果になった。一つに平成30年度は研究のペースが全体的に遅くなっていることが、各種発表会から感じられた。ここから、次年度は「修士論文作成の手引き」を学生便覧から独立させ、より安定したペースメイクができるよう指導していくこととする。	2
2. 定員充足	2. 定員充足達成 平成31年度入学生は9名（うち計画履修3名）となり、定員は確保することができた。しかし、次年度以降内部進学希望者数が思わしくない状況であると聞いている。学内外への広報を丁寧に行っていく必要がある。	5

H30 年度計画事項	H30 年度実施状況	評価 (5段階)
3. 資格試験合格率向上	<p>3. 不合格者の支援の重要性</p> <p>本学の第1回公認心理師国家試験合格率は70% (推定値) であった。全国平均79.6%から比べると低い結果となった。受験者全体への支援として平成31年度も「試験対策講座」は開講する予定であるが、今回の試験の不合格者への支援は合格率を高めるポイントであると考え。まずは、講座への積極的な参加を促し勉強の機会を提供する。</p>	2
4. 地域貢献	<p>4. 公開講座は好評価</p> <p>本専攻が担当した第2回大学院一般公開講座では80名の参加者があり、好評のうちに終了することができた。今後も地域への情報発信を行っていく。</p>	5
5. 教員の教育力向上	<p>5. FDにて院生の研究倫理教育について議論</p> <p>平成31年3月7日(木)に専攻FDを開催した。「大学院生の研究倫理教育について」とし、佐藤専攻主任が話題提供をした。大学院生の倫理教育に関する方向性を共有し、共通した手引きを作成することとした。</p>	4

大学院心理学研究科こども心理専攻

専攻主任・教授 梅宮 れいか

1. 記載事項の実施に関する報告と評価

H30 年度計画事項	H30 年度実施状況	評 価 (5 段階)
<p>1. 教育力の充実</p> <p>1) 修論指導会による多面的指導</p>	<p>修士論文指導会は、こども心理専攻の修士論文の特色である、①主体的研究姿勢の尊重と②専攻教員全員による多面的指導の2つの特色を持つ。毎年5月から11月までの各月に1度行われ、修士論文執筆者が自分の研究をブラッシュアップするために発表を行い指導を受ける機会である。指導を希望する学生は、エントリーする方式での開催だが、エントリーに至るまで、研究がまとまらない傾向があるようだった。</p>	2
<p>2) 修士論文ワークショップの開催</p> <p>8月20日(月)～23日(水)</p> <p>カーサ21研究室待合にて開催</p>	<p>修士論文ワークショップは、平成30年度から始まった修士論文作成支援で、開催期間の全日、朝8:30から17:00までの間、連続で指導が受けられる。自由参加なので修士論文提出予定者6名の内、1名のみ参加となったが、問題の絞り込みと考察で得るものが多かったようだ。ワークショップでは、主に統計解析の作業を行った。</p>	4
<p>3) 研究倫理審査会の開催</p> <p>4月4日(水) 18:00～20:00</p>	<p>修士論文執筆者を対象に、研究倫理に関する研修会を行った。この研修会は、修士論文提出要件のひとつである。M3年生3名が受講した。</p>	5
<p>2. 大学院で持つ知識の地域への還元</p> <p>1) 公開講座の実施</p> <p>①第1回会福島学院大学大学院一般公開講座</p> <p>平成30年9月1日(土) 13:30—16:00</p> <p>テーマ 教育現場におけるユニバーサルデザインと人権</p>	<p>講師は、こども心理専攻主任梅宮れいか教授、平成28年度こども心理専攻修了の梁川美術館館長北村壽秋氏。後援は、福島県、福島県教育委員会、福島県男女共生センター、福島市、福島市教育委員会、福島民報社、福島民友新聞社。参加人数は25名で開催された。会終了後のアンケートでは、教育関係者、現職教員がほとんどで、講演会内容に非常に満足したとの回答だった。</p>	5

H30 年度計画事項	H30 年度実施状況	評価 (5段階)
<p>2) 地域への広報 ①所属教員の講演活動</p> 	<p>大学ホームページに所属教員の講演活動を取り上げ、専攻のもつ知的財産を広報した。</p> <p>本学ホームページより</p>	4
<p>②「出来ることリスト」</p>	<p>福島北高校の3年生が行っている課題研究を応援するために所属教員の”できること”をリストにまとめたシートを作成する計画を立て、準備を進めた。研究科で行う仕事として進めている。</p>	作業中
<p>3. 学生生活への支援 1) 院生懇話会</p>	<p>こども心理専攻に於ける院生懇話会は、在籍学生が少ないので、全員懇談で行った。学生の悩みの第一は、修士論文か思うように書き進められないこと、指導体制や研究環境には、十分満足しているとのこと。</p>	5
<p>4. 教育力向上のための取り組み 1) 専攻内 FD</p>	<p>修士論文の指導について、専攻の特色である①主体的研究姿勢の尊重と②専攻教員全員による多面的指導を進めるために、どのような工夫をしなければならないか、毎月の専攻会議のあと、5回にわたり、研究指導の方向性や意欲高揚のための方法について、研究を行った。</p>	4
<p>5. 短期大学部保育学科・福祉学部こども学科発行の「教育・保育論集」編集への協力</p>	<p>平成 29 年度は「教育・保育論集 第 22 集」の編集主幹を梅宮教授と田辺教授が共同であったり、発行に至ったが、平成 30 年度は、発行がなかった。</p> 	対象外

福祉学部福祉心理学科

学科長・教授 日下 輝美

1. 記載事項の実施に関する報告と評価

H30 年度計画事項	H30 年度実施状況	評 価 (5 段階)
<p>1. 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験合格に向けての取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会福祉士養成、精神保健福祉士養成に関する確認申請の事務手続きの（監督官庁への）対応 【国家試験受験対策講座】 ○精神保健福祉士専門科目国試対策講座 ○社会福祉士・精神保健福祉士全国統一模擬試験 ○社養協・精養協国試対策直前 Web 講座パブリックビューイング及び有資格者によるポイント講座 ○社会福祉士・精神保健福祉士共通科目国試対策講座 	<p>平成30年度の資格取得者数は、社会福祉士（受験資格）8名、精神保健福祉士（受験資格）13名。国家試験対策講座、時間割外や空きコマを活用し、受験勉強の指導を行ってきたが、力及ばず、合格者数は、社会福祉士 2名（本学合格率 28.6%／全国合格率 28.9%）、精神保健福祉士 4名（本学合格率 33.3%／全国合格率 62.7%）であり、両福祉士ともに、全国合格率に達することができなかった。</p>	2
<p>2. 実習教育の見直しと更なる充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「地域ボランティア活動」事前指導 ②「資格取得志望面接」 対象 2 年生 ③「ソーシャルワーク技術チェック面接」 対象 4 年生 ④ゲストスピーカー招聘 ⑤実習指導者との意見交換会 	<ul style="list-style-type: none"> ①「地域ボランティア活動」履修生は、事前学習として、ボランティアの基本的理念・倫理についての講義・ディスカッションの機会をクラスセミナー等で行った。 ② 社会福祉士、精神保健福祉士を希望する学生を対象に実習担当教員による資格取得志望の面接を実施した。 ③実習事前指導の一環として、ビデオに模擬面接場面を収録し、実習担当教員が、録画された面接場面にもとづいて、指導を行った。 ④ クラスセミナーの授業を活用し、保健・福祉現場で活躍する専門職者を招聘し、仕事の内容や体験談、体験しておくべきこと等を講話いただいた。 ⑤ 実習指導者との意見交換により、実習指導がより円滑に進められ、無事実習を終えることができた。 	5

H30 年度計画事項	H30 年度実施状況	評 価 (5 段階)
⑥実習事後指導 実習反省会「相談援助実習・精神保健福祉援助実習」	⑥ 実習事後指導の一環として実習反省会を実施し、実習生は総まとめと発表ができた。次年度以降、実習を希望する学生にとっても実習を具体的にイメージできるものとなった。反省会終了後、履修生と後輩学生との交流会（情報交換）を行った。	
<p>3. 学生生活の支援</p> <p>①個別面談 前期・後期</p> <p>②連続欠席者等の把握 前期・後期</p> <p>③オフィス アワー周知</p> <p>④学科授業改善委員会</p> <p>⑤ 学生相談</p>	<p>① 前期後期に各学年クラスアドバイザーとサブアドバイザーによる個別面談を実施し、大学で対応可能な事項については、早めの対応を心がけた。</p> <p>② 連続欠席者等の把握と個別指導及び保護者への連絡を行い、後期・次年度の対応に活かした。</p> <p>③オフィス アワーを設け、学生が相談を受ける機会を確保した。</p> <p>④ 学科授業改善委員会 2 回開催した。授業について学生目線での意見を受け、科内会議、非常勤 FD 研修会の際、改善に努めるよう注意、喚起を行った。</p> <p>⑤ 学生相談 心理臨床相談センターにおける個別の学生相談による学生生活支援がなされている。</p>	5
<p>4. 就職対策</p> <p>キャリア支援室との共催事業「ご家族就職説明会」（対象 2～4 年生の保護者、学生）開催</p>	<p>キャリア支援室と職情報共有を図り就職支援を行ってきた。3月18日時点で、95%であり、卒業後も、継続して学生の希望（就職先）が叶えられるようキャリア支援室と連携し支援を行っていく。</p> <p>「ご家族就職説明会」では、卒業生の体験談及びご家族との個別面談で、就職へ向けての意欲喚起と早めの情報共有を図った。</p>	4
<p>5. 教育力の向上に向けた取り組み</p> <p>①学科 FD 研修会 2 回開催</p> <p>②非常勤 FD 研修会 1 回開催</p> <p>③学科評議員会 2 回開催</p>	<p>①更なる教育の充実を図るため、学長、他学科学科長を講師として依頼し FD 研修会を実施した。</p> <p>② 非常勤と専任教員間で参加型の学習に向けての工夫点や聴く力を学生に歩み寄っていく等意見交換された。</p> <p>③ 学科評議員 5 名の参加のもと、学科教育課程並びに、運営について意見をいただくとともに、キャリア教育についても参考とすべき情報提供が得られた。</p>	4
<p>6 地域貢献活動を推進する</p> <p>①福島市社会福祉協議会主催「ふれあい広場」に運営スタッフとして協力</p> <p>②ふくしまキッズ実行委員会主催「ふくしまキッズ博」企画・運営スタッフとして協力</p>	<p>①避難者家族や福島市内の子どもの遊び場を提供した。</p> <p>②ふくしまキッズ博のアカデミアコンソーシアムふくしまによる市内 4 大学の学生実行委員会に参加し、企画実施、ACF 成果報告会で発表することができた。</p>	5

2. 計画記載以外で実施した事項の報告と評価

H30 年度計画事項	H30 年度実施状況	評 価 (5 段階)
1. 地域貢献活動	① 福島駅前キャンパス地域を管轄とする福島市消防団 第一方面隊が実施した「2018 年度 消防フェア」のイベント行事に参加し、『塗り絵、クイズコーナー』を担当し来場者・子どもと交流を行った。 ② 福島市まちなか子ども夢駅伝競走大会実行委員会（事務局：福島民友新聞社）が実施した大会に運営スタッフとして参加し、スポーツ推進に寄与した。 ③ 土湯温泉観光協会開催の『土湯温泉ぶらっと温泉バル』のイベントにボランティア協力した。	5

3. その他（特記したい事項）

H30 年度計画事項	H30 年度実施状況	評 価 (5 段階)
	該当なし	

福祉学部こども学科

学科長・教授 田辺 稔

1. 記載事項の実施に関する報告と評価

H30 年度計画事項	H30 年度実施状況	評 価 (5 段階)
<p>1. 教育職員免許法改正に伴う再課程認定・指定に関わる文部科学省総合教育政策局教育人材政策課（旧教職員課）への対応</p>	<p>教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則の改正に伴い、平成 31 年 4 月 1 日より新教育課程が開始される事となり、30 年度の運営は再課程認定申請一色となった。昨年度末（30 年 3 月 30 日）に文科省教職員課へ認定申請書を提出してきたが、年度明け、8 月より 10 月に掛け指摘事項（教員免許企画室指摘による教員変更・シラバス変更指示等の修正指示）がかなりの頻度で通達され、11 月末まで対応・修正に追われた。</p> <p>今回の指摘は「コアカリキュラム」と「シラバス」との整合性で、特に「コアカリキュラム」において求められる要件を如何に「シラバス」に反映させているかが審査のポイントであった。教科に関する「シラバス」は担当教員の活字業績との関連が求められるが、この業績内容と「コアカリキュラム」の要件を集約する作業が極めて困難な作業となった。</p> <p>なお、平成 31 年 1 月 25 日付けで、教育職員免許法改正に伴う再課程の認定が下りた（但し受理日は 2 月 18 日）。2 月 28 日に教員変更を文部科学省総合教育政策局教育人材政策課へ申請、専任教員は別途資格審査があり、回答は年度末となる。兼担・兼任教員付いては 3 月 22 日に差し替えの通知があり、同課へ赴くこととなる。</p>	

H30 年度計画事項	H30 年度実施状況	評 価 (5 段階)
2. 保育士養成課程の教科目の見直しに伴う養成糧の再編成	<p>教員免許に関わる再課程認定に呼応するように、保育所保育指針の改訂（厚生労働省において、保育所保育指針の構成や内容等について検討されてきた）を踏まえた「保育士養成課程の教科目の見直し」が実施され、再課程認定同様平成 31 年度より適用される事となった。これは「保育所保育指針」を改定し、幼児教育の充実・小学校との連携強化、地域の子育て拠点としての保育所の機能強化等を図る観点から、養成課程の教科目そのものを変更するようにとの通達である。</p> <p>教科目の見直しには、教授内容の再編および教授内容の新たな観点の追加、教科目名の変更が含まれ、養成課程科目の大部分が対象となった。今回の変更点の難しさは、再課程認定に伴う科目名との調整であり、「コアカリキュラム（教職員課指定）」と「教授内容の再編・追加（厚労省指定）」との整合性を養成校側で取っていくことにあった。</p> <p>平成 31 年 1 月 21 日付け、福島県知事名で「児童福祉法施行令第 5 条 3 項」※の規程による「学則の変更」の承認通知があった。</p>	変更申請が未決のため 評価保留
3. 履行状況報告	<p>平成 30 年度はこども学科完成年度の 4 年目を迎え、最後の履行状況報告を纏めあげた。履行状況関連では単に報告書を纏めあげるだけではなく、場合により大学設置係による実地調査があるケースもあり、対応には慎重に臨んできた。</p>	5
4. 教員免許課程認定審査基準および指定保育士養成施設指定基準に基づく学科運営、教育課程の適切な編成とシラバス作成上の留意	<p>学科教育の基本的スタンスは「幼稚園教諭一種免許」の取得であり「保育士」資格の取得（両免許資格の取得で保育教諭としての活躍）である。こども学科においては 30 年度も、同種資格免許の取得を目指す保育学科と連携して、審査基準に対応した適正な学科運営を目指してきた。</p> <p>また、資格・免許状取得にかかる必修の専門教育科目は、厚生労働省、文部科学省が示す授業内容を十分満たすように配慮してきた。特に幼稚園教諭免許に関する文部科学省教職員課に提出した教職課程の授業内容（シラバス）の確認は徹底して行った。</p> <p>学科のシラバスは全ての科目に関して概要と担当者、教職科目等資格・免許状取得にかかる必修の専門教育科目は詳細なシラバスと担当教員を文部科学省教職員課へ提出しており、授業内容等は完成年度まで変更はしない事を原則としてきた。しかし平成</p>	

H30 年度計画事項	H30 年度実施状況	評 価 (5 段階)
	31 年度からの再課程認定合わせ、文部科学省教職員課から提示された「コア・カリキュラム」の実施が平成 30 年度から推奨されており、さらにその内容が保育士養成課程の再編に伴い再々統合が必要となるなど、極めて煩雑な対応が求められてきた。	5
5. 教員免許状更新講習会の実施	27 年度より学生の実習先幼稚園、保育所（園）から募集定員増の要望が多く寄せられなどの背景を基に募集定員を一気に倍の 100 名とし、さらに 29 年度は実質催行人数にあわせ 120 名に募集人数の増員を行い、30 年度はクラス収容人数（試験会場の確保）から 124 名で実施した。延べ 5 日間 30 時間の講習は無事終了出来た。	5
6. 実習反省会の開催	30 年度は幼稚園教育実習が実施され、を 29 年度の保育所実習・施設実習に続き、学科の全実習関連科目が出揃った年度であり、反省会も厚みのある行事となった。幼稚園教育実習、保育実習Ⅰ（保育所・福祉施設）、および保育実習Ⅱまたは保育実習Ⅲの 4 種実習のうち履修した 3 種実習のうち履修した 3 種実習以上について、80 点以上を取得した学生について褒賞する規程に沿い、30 年度は 6 名の学生に「学科長顕彰」を授与することが出来た。これは学科としても初めての褒賞となった。	5
7. 卒業論文作成指導と提出・卒業研究発表会	こども学科には学科設置当初から「ゼミナール」を専門教育科目における卒業必修科目（4 単位）として設定してきた。30 年度は、学科初めての、それは本学にとっても初めての、ゼミナールにおける卒業研究の成果としての「卒業論文」の提出があった。 卒業論文提出の対象は 5 つのゼミナールで、3 年次 4 年次の継続履修は楽しくもあり、研究の厳しさも身につけた「師弟同行」の 2 年間であった。	5

H30 年度計画事項	H30 年度実施状況	評価 (5段階)
<p>8. F D 研修・非常勤教員 FD 研修会の実施</p>	<p>教員の教育力、資質向上のための F D 研修会を合同で開催し、学生の資格・免許状取得のための教育の充実と徹底、科内教員の共通理解も図った。</p> <p>非常勤教員 FD 研修</p> <p>本研修会では、前期に実施した授業参観状況と、「学生との授業改善委員会」の報告、さらに授業計画の作成にあたっての留意点、授業における各自の改善点や工夫している点について話し合われた。</p> <p>なお、小職より、教職課程の再課程認定に関わる教職科目担当する教員には専任・非常勤に関わらず活字業績が求められる点、また保育士養成課程の変更があり、状印来に科目内容及び名称が大幅に変更する見込みである点を説明、協力を求めた。</p>	<p>5</p>
<p>9. 学生支援に関わる諸活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新入生対象「入学前研修会」の開催 ○ 「学生・ご家族との個別面談会」の開催 ○ 「個人面談」「フリー個人相談」実施による学生サポートの強化 ○ 「コンピュータ特別講座」の開催 ○ ボランティア活動の奨励と地域社会への貢献 	<p>新入生対象「入学前研修会」の開催</p> <p>新入生の履修に関する指導を徹底し、履修届を早期に提出させることを目的に、入学前に 2 日間の研修会を開催した。能力別に分けて行う授業「情報機器操作」「英会話」「ピアノ演習」等と教養教育科目：選択科目の履修分けも期間中に行い、前期の授業がスムーズにスタートできるよう体制を整えることが出来た。</p> <p>同様に、国語力アップ特別講座（入学予定者対象）開催し、入学予定者を対象に、入学前の不安解消や国語力アップの一助とした。</p> <p>「学生・ご家族との個別面談会」の開催</p> <p>クラスアドバイザーを中心に、学科教員による「学生・ご家族との個別面談会」を開催する。従来、同一の面談会は短期大学部保育学科との合同事業として開催してきた面談会であったが、30 年度は 4 年生が就職時期を迎え 4 年制大学における就職活動をメインにキャリア支援室との合同事業とし、併せて他学年の個別面談会を実施した。</p> <p>「個人面談」「フリー個人相談」実施による学生サポートの強化</p> <p>「学生とクラスアドバイザーの個人面談」を、前期（5 月～6 月）1 回、後期（10 月中旬～11 月）1 回、年 2 回実施した。</p>	<p>5</p>

H30 年度計画事項	H30 年度実施状況	評 価 (5 段階)
10. その他の学科行事 国内研修旅行（1 年生） 『バリダンスレッスンとバリ島幼稚園交流』	国内研修旅行 保育者を目指す者として必要な知識・教養等について体験を通して学ぶことを目的に企画・実施した。本行事も昨年度まで短期大学部保育学科と合同開催としてきたが、1 学科 1 クラスである学生を様々なコース（29 年度は 4 コース）に分散させ実施するよりも、研修の目的や研修先の情報・知識をクラス内で共有し実施する方が教育効果が高く望めるのではないかとの反省に立ち、学科単独の行事として催行したものである。 なお『バリダンスレッスンとバリ島幼稚園交流』は履修希望者がなく、休止となったが特色の 1 つとして次年度継続的に募集していく。	5

2. 計画記載以外で実施した事項の報告と評価

H30 年度計画事項	H30 年度実施状況	評 価 (5 段階)
該当なし		

3. その他（特記したい事項）

H30 年度計画事項	H30 年度実施状況
	履行状況報告に始まり、29 年度末から継続する教育職員免許法改正に伴う再課程認定・指定に関わる文部科学省総合教育政策局教育人材政策課（旧教職員課）への対応と保育士養成課程の教科目の見直しに伴う養成糧の再編成に追われた年度であった。学科及び学科学生と真摯に向き合える時間はごく僅かであった。次年度申請・変更に関わる事務手続き等の事務局等専門セクションの必要性を強く感じる。

短期大学部保育学科


学科長・教授 渡辺 雅子

1. 記載事項の実施に関する報告と評価

H30 年度計画事項	H30 年度実施状況	評 価 (5 段階)
<p>1. 保育士養成課程改正に伴う教育課程の見直しについて</p> <p>平成29年度は、教育職員免許法、及び教育職員免許法施行規則の改正に伴う、平成31年度入学生からの幼稚園教諭二種免許状にかかる保育学科教育課程の一部改正を検討した。</p> <p>一方、指定保育士養成施設における現行の保育士養成課程については、平成23年度施行から7年目を迎えている。この間、平成27年4月には「子ども・子育て支援新制度」が施行されるなど、保育を取り巻く状況は絶えず変化しており、その状況は多様化・複雑化している。今般、保育をめぐる社会情勢が変化中、保育所保育指針が約10年ぶりに改定（厚生労働大臣告示、平成30年4月1日適用）され、以下の内容が盛り込まれた。</p> <p>◇年齢層ごとの保育のねらい及び内容の明確化 ◇幼児教育の積極的な位置付け ◇養護に関する基本的事項の明記 ◇職員の資質・専門性の向上 等</p> <p>こうした状況を踏まえ、今後の保育士に必要な専門的知識及び技術を念頭に置き、保育士養成課程を構成する教科目の見直しを行い、保育士資格取得のため、平成31年度入学生からの保育学科教育課程の改正を行う。</p> <p>なお、それに伴う申請書類の作成・提出を福祉学部こども学科、教務課と連携して行う。また、各教員の授業科目にかかる業績や各授業科目の授業内容（シラバス）の精査など、遺漏がないよう進めていく。</p>	<p>保育士養成課程の改正に伴い、2019年4月入学生からの専門教育科目の改正を実施した。新しい教育課程では、現行の系列(6系列で構成)の内、「保育の表現技術」が削除され、次の5系列で構成した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「保育の本質・目的に関する科目」(7科目:14単位) 「教育原理」、「保育原理」、「保育者論」、「社会福祉」、「子ども家庭支援論」、「子ども家庭福祉」、「社会的養護Ⅰ」 2. 「保育の対象の理解に関する科目」(5科目:10単位) 「発達心理学」、「子ども家庭支援の心理学」、「幼児理解の理論及び方法」、「子どもの保健」、「子どもの食と栄養」 3. 「保育の内容・方法に関する科目」(19科目:22単位) 「保育・教育課程論」、「保育内容総論」、「保育内容指導法 健康」、「保育内容指導法 人間関係」、「保育内容指導法 環境」、「保育内容指導法 言葉」、「保育内容指導法 表現」、「障害児保育」、「社会的養護Ⅱ」、「子育て支援」、「乳児保育Ⅰ」、「乳児保育Ⅱ」、「子どもの健康と安全」、「幼児と健康」、「幼児と人間関係」、「幼児と環境」、「幼児と言葉」、「幼児と表現(造形)」、「幼児と表現(音楽)」 4. 「総合演習」 「保育・教職実践演習(幼稚園)」 5. 「保育実習」 「保育実習指導Ⅰ」「保育実習Ⅰ」「保育実習指導Ⅱ」「保育実習Ⅱ」「保育実習指導Ⅲ」「保育実習Ⅲ」 <p>福島県に10月11日付で申請し、平成31年1月21日付、児童福祉法施行令第5条第3項の規定により承認された。</p>	<p>5</p>

H30 年度計画事項	H30 年度実施状況	評価 (5段階)
<p>2. 指定保育士養成施設指定基準及び教員免許課程認定審査基準に基づく学科運営</p> <p>前述の通り、教育職員免許法、及び教育職員免許法施行規則の改正に伴い、平成29年度末に再申請に関わる申請書を提出したところである。再課程認定の審査結果は、平成30年度中に受けることとなるが、引き続き各教員の業績と授業内容の精査を継続的に実施していく。さらに、本年度も次の点を遵守して、こども学科、事務局(人事課・教務課)と連携して、適正な学科運営を行っていく。</p> <p>◇指定保育士養成指定基準、教員免許課程認定審査基準に基づく教員配置</p> <p>「教員免許課程認定審査基準」の点検・確認</p> <p>◇授業実施コマ数の確保(半期15コマ・通年30コマ実施。定期試験はコマ数外)</p> <p>なお、資格・免許状取得にかかる必修の専門教育科目は、厚生労働省、文部科学省が示す授業内容を十分満たすようにする。特に資格・免許状取得にかかる科目は、学科長・学科主任・計画履修生担当主任の責任において、授業計画依頼の際、当該科目の担当者に資料を提供し周知・徹底していく。</p> <p>資料は「教科目の教授内容」(厚生労働省児童家庭局保育課編)と「教育職員免許法」「教育職員免許法施行規則」とし、それぞれに記されていることを教授内容の必要条件として、授業計画を作成する。</p>	<p>*平成29年度末に幼稚園教諭二種免許状取得にかかる再申請に関わる申請書を提出していたが、平成30年度中は、数回にわたる文部科学省の指導を受け、ようやく平成31年1月25日付で認定を得ることができた。しかしながら、授業担当者の変更による書類の差し替えなど、本年度末まで、その作業におわれた。</p> <p>*授業コマ数の確保については、学科独自の授業日を土曜日(前期:3日・後期:1日)に設けるなどして、全授業において実施回数を確保することができた。</p> <p>*授業計画の作成については、2019年度教育課程が教養教育科目を含め、大幅に変更となることから、授業計画の確認、チェックに長時間費やすこととなった。特に、文部科学省に提出している幼稚園教諭二種免許状取得にかかる授業科目のシラバスは遵守しなければならない。また、保育士養成の必修科目についても「教科目の教授内容」が明示されているため、担当教員に周知して授業計画を作成してもらった。</p> <p>今後においても新教育課程の完成年度までは、保育士資格・幼稚園二種免許状に取得にかかる必修科目の専門教育科目は、厚生労働省、文部科学省が示す授業内容を十分満たすように確認を徹底していく。</p>	<p>5</p>



H30 年度計画事項	H30 年度実施状況	評価 (5段階)
<p>3. 教養教育科目等の教育課程の見直し</p> <p>平成31年度入学生からの教育課程改正に伴い、教養教育科目の授業科目についても名称や授業内容の見直しを行う。</p> <p>科目によっては、こども学科教育課程との調整を図る。</p> <p>また、過去3年間開講していない授業科目も見直す。</p>	<p>2019年度入学生からの専門教育科目の教育課程改正に伴い、教養教育科目の授業科目についても、本学の特色ある教育の推進を目指し、名称や授業内容の見直しを実施した。</p> <p>1. 「表現力向上分野」 文章表現（旧：国語表現）…日本語検定試験の導入、広報紙の作成など 会話演習 ※必修科目に変更…会話力の向上、テレビ番組の制作など</p> <p>2. 「情報教育分野」 ※選択必修科目（3科目）・授業回数15回に変更 情報機器操作Ⅰ、情報機器操作Ⅱ、情報機器操作Ⅲ 新規開設科目 ※選択科目 スマートフォン活用法、スマートフォンのモラルとリスク、ウェブ動画制作</p> <p>3. 「現代教養分野」 旧「教養分野」 新規開設科目 ※選択科目 テレビ報道に見る現代理解 ※国際理解論からの変更。 教養演習Ⅰ、教養演習Ⅱ ※テーマ事例：メンタルヘルス、コミュニケーション論 など</p> <p>4. 「体育分野」 体育実技は、学生が生涯継続してスポーツに親しむ技術と習慣を身につけ、健康・体力づくりの実践力向上を目標とし、完全種目選択制を再導入。種目数は5種目に厳選して開講。 バスケットボール・バレーボール・バドミントン・卓球・レクリエーションスポーツ</p>	<p>5</p>
<p>4. 保育学科（CDクラス）学生への支援</p> <p>保育学科CDクラスは、ABクラス学生と同一の教育課程であるが、企業での勤務時間による時間割編成に相違がある。本年度もABクラスとの合同授業の実施や行事等の運営を進めていく。</p>	<p>* 「教育実習」、「保育実習」などの実習時期を、可能な限りABと同時期にできるように見直しを図った。次年度から新実習日程で運営していく。</p> <p>* 1・2・5時限開講授業が、ABとの履修者数を合わせて50名程度であれば、合同授業がきるよう時間割編成を工夫して6科目実施した。</p> <p>* 「国語表現」統一テストは、ABとは別に、土曜日に設定し規定回数を実施することができた。</p> <p>* 学生支援プログラムも時間的な制約があったが、次のプログラムを実施した。「学生・ご家族との</p>	<p>4</p>

H30 年度計画事項	H30 年度実施状況	評 価 (5 段階)
	<p>個別面談会」「個人面談」「ピアノレッスン・サポートプログラム」</p> <p>*学科行事「スポーツ大会」「創作ミュージカル発表会」「実習反省会」、学外授業「テーブルマナー演習」は合同で行うことができた。</p>	
<p>5. ボランティア活動の奨励と地域社会への貢献</p> <p>ボランティア活動の奨励</p> <p>本年度においても「子ども理解」、「コミュニケーション能力の向上」などを図ることを目的に実施する。特に1年生は、実習事前の一環として、保育所実習を希望する保育施設（保育所、認定こども園など）での1日間のボランティア活動以外にも、教育・保育施設、もしくは地域での教育・保育に関するイベントなどでのボランティア活動を奨励する。</p>	<p>*実習指導の一環として、次年度、学外実習を希望する教育・保育施設（幼稚園、保育所、認定こども園、施設など）、もしくは地域での教育・保育に関するイベントなどでのボランティア活動を奨励し、前期は学生夏期休業中を中心に実施した。</p> <p>*教育・保育に関するイベント、研修会などの学生ボランティア動員や研修会参加の要請があり、学科として可能な限り対応した。</p>	
<p>平成30年度 保育学科ボランティア活動等内容 / 実施総数：192名</p>		
<p>地域社会への貢献</p> <p>教育・保育に関するイベント、研修会等の学生ボランティア動員や研修会参加の要請があった場合、学生にもボランティア活動を奨励していくことから、学科として可能な限り対応していく。実施にあたっては、保育学科学友会にも協力を依頼して実施していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福島学院大学認定こども園行事へ～学生ボランティアを動員 ・教育・保育に関する研修会への参加 	<p>1. 福島学院大学認定こども園行事へ～学生ボランティアを動員【佐藤敦子教授・園長】</p> <p>(1)なつまつり・・・期日：7月7日(土) *ボランティア学生数：17名</p> <p>(2)お泊り保育・・・期日：7月20日(金)～21日(土) *ボランティア学生数：15名</p> <p>(3)ファミリープレイデー・・・期日：10月6日(土) *ボランティア学生数：10名</p> <p>2. 教育・保育に関する研修会等への参加【中野明子講師ほか】</p> <p>(1)すまいるあっぷふくしま(親子で楽しむ運動遊び)・・・期日：7月14日(土) *参加学生数：1名</p> <p>(2)ふれあい子ども食堂・・・期日：8月6日(月) *参加学生数：6名</p> <p>3. 地域社会貢献イベントでの学生ボランティア *中野明子講師担当</p>	<p>5</p>

H30 年度計画事項	H30 年度実施状況	評価 (5段階)
   	<p>(1)砂遊びイベントこむこむブラージュ…期日：7月21日(土)～22日(日) *ボランティア学生数(7/21)7名・(7/22)5名</p> <p>(2)ふくしまキッズ博…期日：7月28日(土)・29日(日) *ボランティア学生数(7/28)33名・(7/29)21名</p> <p>(3)砂遊びイベント十六沼ブラージュ…期日：9月8日(土) *ボランティア学生数：3名</p> <p>(4)福島サンドアートフェスティバル…期日：10月6日(土)・7日(日) *ボランティア学生数(10/6)8名・(10/7)9名 *杉浦広幸教授担当</p> <p>(1)御幸山例大祭山開き…期日：4月22日(日) *ボランティア学生数：7名</p> <p>(2)浄土平山開き…期日：6月3日(日) *ボランティア学生数：5名</p> <p>(3)ウクライナの中学生との交流ボランティア…期日：8月29日(水) *ボランティア学生数：4名</p> <p>*高橋雄二講師担当</p> <p>ばんだい荘ふれあいフェスティバル…期日：10月27日(土) *ボランティア学生数：6名</p> <p>*その他：各地域でのボランティア *ボランティア学生数：33名</p>	
<p>6. 教育・保育実習への支援と指導強化</p> <p>○ 実習時期の見直し ○</p> <p>全クラスの実習時期を可能な限り同日程で実施できるように、実習日程を本年度以降、段階的に見直しを図っていく。同時期に実施できることによって、学生の実習による授業欠席日数の減少、教員の実習巡回負担の軽減、実習巡回経費の削減も図ることができる。</p>	<p>次年度の実習時期を見直すことができた。教員の実習巡回負担の軽減、実習巡回経費の削減も図ることが期待できる。</p> <p>実習時期</p> <p>*本年度 … 1年CD「基本実習」11月下旬から12月</p> <p>*次年度以降…2年CD「保育実習(施設)」5月・「保育実習(保育所)」7月～8月・10月 3年CD「教育実習」8～9月・「保育実習Ⅱ・Ⅲ」10月～11月</p>	<p>4</p>

H30 年度計画事項	H30 年度実施状況	評 価 (5 段階)
<p>○ 実習施設へのきめ細かい対応 ○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食物アレルギーに加え、過度な偏食の学生への対処 → 実習先への対応を個別に行う ・実習生プロフィール → 記載事項の追加 	<p>昨年度から、食物アレルギーを持つ学生が実習を実施する場合、それぞれの実習先の要請に従い対応している。さらに過度な偏食の学生についても同様に個別に対応を行った。(実習生プロフィールにも記載)</p> <p>教育実習先との意見交換会において「ピアノ」のレベル(グレード)が分かるように、実習先に送付する「実習生プロフィール」に記載した。また、施設実習においてもピアノ・ギターなどの楽器を演奏する機会もあるので、新たに「器楽演奏」の欄を設け、ピアノについてはレベル(グレード)まで記載した。</p>	5
<p>○ 各種実習授業の充実と強化 ○</p> <p>実習主任を中心に、実習別に授業担当者による打合せを行い、指導内容の検討と共通理解を図る。</p>	<p>施設実習の事前指導(2年生)</p> <p>施設実習時の障害児保育の補完講座として、2年次4月実習オリエンテーション時に「障害児保育」基礎講座を2コマ実施した。さらに、実習先施設の種別ごとにグループ分けをし、ゲストスピーカー(2名)を招聘して各施設の特徴や利用者の実態、実習先での具体的な援助・処遇の仕方について指導を行い、施設実習へと繋げた。</p> <p>保育所実習・教育実習の事前指導(2年生)</p> <p>実習の心構えや意欲向上を目的に、保育現場で活躍する本学卒業生(園長等)をゲストスピーカーとして依頼し、指導にあたった。なお、教育実習(事前・事後指導を含む)はクラスごとに授業担当者を委嘱し、最初の基本実習から協力幼稚園等での幼稚園実習まで、一貫性のある教育、指導体制で事前・事後指導を行っていくため、専任教員を配置した。</p>	5
<p>○ 基本実習と基本実習事前・事後指導の見直し ○</p> <p>基本実習に関する共通理解を図るため、教育実習担当教員と本学認定こども園との実習打合せ会を、複数回開催する。</p> <p>近年、学生気質も変化しており、従来からの基本実習の実施方法を見直す時期となってきた。本学認定こども園と協議を重ねながら、協力幼稚園等での教育実習に繋がるような指導内容に変更していく。</p>	<p>本学認定こども園からの絶大なる協力を得て、基本実習の実施内容等を見直すことができた。</p> <p>*改善、変更した主な事項*</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園長講話を初日、最終日の2回設定し、学生からの質問等に対応していただいた。 ・基本実習中の現場での講義は必要最小限とし、事前・事後指導の授業の中で実施。 ・配当クラスでの見学・観察実習の機会を増やしていただいた。 ・教材・教具の準備・手伝いの時間を設ける等、保育現場を経験する機会を設けていただいた。 ・実習期間中の空き時間を利用して、実習日誌を記入する時間を設定した。 	4

H30 年度計画事項	H30 年度実施状況	評 価 (5 段階)
<p>○ 学外実習事後指導の充実・実習巡回の徹底 ○ 実習巡回担当教員は、事後指導の一環として、実習終了後に担当学生との面談を必ず実施。また、教員が実習巡回をする場合は、実習状況を把握し、必要に応じて実習先での学生指導にもあたる。実習先でトラブルが生じている場合には、まず口頭で実習主任に報告し、学科内で協議の上、迅速に実習先へ対応する。 なお、実習巡回担当教員と実習生との懇談会は、本年度も継続して行う。</p>	<p>・実習巡回担当教員は、事前指導はもちろんのこと、事後指導の一環として、実習終了後に担当学生との面談を実施した。 ・実習巡回は遠方(青森・横浜)の4件を除き、全学外実習の巡回指導を実施することができた。 ＊遠方での実習は、実習担当者が電話連絡をして実習状況を把握した。 ・実習巡回担当教員と実習生との懇談会も各教員が昼休みの時間帯を利用して実施することができた。(会食代は各教員の教員経費から支出)</p>	4
<p>○ 実習反省会の実施 ○ 実習反省会は、保育学科全学生を対象に各種実習の事前・事後指導の一環として開催する。 ◆期日／2月2日(土) ◆会場／千葉記念ホール</p> <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;">   </div>	<p>・発表方法は、内容が理解しやすく教育的効果が得られるため、スライドを使用した。 ・発表者は、保育実習(施設実習)1名、保育実習Ⅲ(施設実習)1名、保育実習(保育所実習)1名、保育実習Ⅱ(保育所実習)1名、教育実習2名、合計6名とし、各クラスからバランス良く選出した。 ・施設実習の部、保育所実習の部、教育実習の部の3部構成とし、学外からも助言者を招聘して指導内容をより深めることができた。</p>	5
<p>○ 児童福祉施設見学実習方針と実習前のボランティア活動の実施 ○ 施設理解を深めるために、児童養護施設と障害児(者)施設の2か所を見学実習先として設定する。 なお、保育所見学実習は本年度もクラス単位では実施せず、次年度予定している保育所実習先でのボランティア活動を1日間、個々に実施して、それを従来の保育所見学実習として認めることとする。</p>	<p>・実習先では、グループに分かれて施設内を見学した。職員の説明に熱心に耳をかたむけ、メモをとる姿があった。学生は積極的に質問する姿が見られ、次年度の実習への意欲を高めることができた。 ・施設長や実習担当者、および保育士(本学卒業生)から、現場の実情や実習生に望むこと、今後の具体的な実習の準備、保育者としての人間性について等のお話をいただいた。質疑応答では、本学の卒業生に回答していただく場面もあり、学生は緊張感もほぐれ親近感を感じていた。 ・見学実習先への依頼は前年度の1月中に行い各施設とも快く内諾を得た。次年度も早めに依頼し、施設側の協力を仰ぎたい。</p>	5

H30 年度計画事項	H30 年度実施状況	評価 (5段階)
	<ul style="list-style-type: none"> ・本年も見学実習当日に、引率者、および保育学科教職員の協力を得て、身だしなみ（髪色、髪型など）のチェックを行うことができた。その後の基本実習や2年次の実習事前指導として有効であり、次年度以降も学科内教職員の協力を得て、指導の徹底を図る。 ・保育所実習先でのボランティア活動については、全員実施することができた。 	
<p>7. 学生支援プログラムの実施</p> <p>○ 入学予定者対象「入学前特別講座」の開催 ○ 入学予定者を対象に、入学前の授業に対する不安解消と、入学後の学習の仕方を学ぶ機会として3講座を開催する。</p> <p>1. 国語力アップ特別講座(希望者対象) *こども学科との合同事業</p> <p>2. コンピュータ特別講座(希望者対象) *こども学科との合同事業</p> <p>3. 初心者向け「ピアノ・レッスン特別講座」(希望者対象)</p>  	<p>1. 国語力アップ特別講座(希望者対象) *こども学科との合同事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期日 / 2月21日(木) ①午前の部 ②午後の部【2回開催】 ・会場 / 本学宮代キャンパス 本館42番 ・担当者 / 田上貞一郎教授 ・参加者数 / ①午前の部…30名 ②午後の部…21名 <p>2. コンピュータ特別講座(希望者対象) *こども学科との合同事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期日 / 3月27日(水)・28日(木) ※希望者は都合の良い日に参加。 ・会場 / 本学宮代キャンパス カーサ21 C22 ・担当者 / 酒井 創准教授(補助学生2~3名) ・参加者数 / 3/27(水)…20名、3/28(木)…15名 <p>3. 初心者向け「ピアノ・レッスン特別講座」(希望者対象)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期日 / 2月25日(月)・27日(水)、3月13日(水) ※希望者は都合の良い日に参加。 ・会場 / 本学宮代キャンパス 音楽館第一音楽教室 ・担当者 / 佐藤敦子教授 ・参加者数 / 2/25(月)…21名、2/27(水)…7名、3/13(水)33名 <p>入学予定者に希望を持って、保育学科に入学してもらえよう3講座は継続して実施していく。</p>	4
<p>○ 新入生対象「入学前研修会」開催 ○ 新入生の履修に関する指導を徹底し、履修届を早期に提出させることを目的に、入学前に2日間の研修会を開催する。</p> <p>なお、能力別に分けて行う授業「情報機器操作」「ピアノ演習」と教養教育科目：選択科目の履修分けも期間中に行い、前期授業がスムーズに開始できるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育学科入学予定者を対象に2日間実施した。 *期日 / 4月4日(水)・5日(木) ・「情報機器操作」は授業担当者から説明し、I、II、IIIの履修分けを実施した。 ・「ピアノ演習」は4グレードと「ギター演習」の説明も実施し、研修期間中にグレード分けを完了した。 ・教養教育科目の選択科目も学生の希望を取り、期間中に履修登録を行った。 ・新年度、授業がスムーズにスタートできるよう入学前学科オリエンテーションは継続して実施していく。 	5

H30 年度計画事項	H30 年度実施状況	評価 (5段階)
<p>○「学生・ご家族との個別面談会」開催 ○ *キャリア支援室との合同事業</p> <p>クラスアドバイザーを中心に、学科専任教員による「学生・ご家族との個別面談会」を開催する。面談会では学生生活における悩み、実習、就職、編入学などの相談を中心に、ご家族の方も交えてコミュニケーションを図ることを重視する。</p> <p>なお、ご家族の就職への関心が高いことから、キャリア支援室の協力を得て就職に関する全体説明と個別の相談会も実施して充実を図る。</p> 	<p>日時：平成30年7月7日(土)①午前(9:30～11:30) ②午後(13:00～15:00)</p> <p>会場：全体説明会場 本館33番教室/個別面談会場 本館31番教室</p> <p>学内案内施設 本館、音楽館、カーサ21、食米館 *希望者のみ。</p> <p>参加者：午前の部8組(18名):1B3組(7名)/2A3組(6名)/2B2組(5名) 午後の部8組(17名):1A1組(3名)/1B4組(9名)/2B3組(5名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご家族の就職に対する関心が高く、詳しく知ることができ、満足度が高かった。 ・本年度から、申し込み時に面談希望時間帯を調査した。当日は混乱もなく、予定通りに進めることができた。 ・学科教職員が誠意を持って丁寧に対応し、学生・ご家族からは大変好評であった。 ・1組に長時間を要することもあり、次のご家族を待たせてしまう場面もみられた。次年度は、申込順に沿って希望時間帯を考慮した上で、当日の個別面談会の時間設定を行い、待ち時間が少ないよう円滑な運営を心がけていく。 ・次年度の実施報告には、主な面談内容を記載し、学科内で情報を共有する。 	<p>4</p>
<p>○「個人面談」「フリー個人相談」実施による学生サポートの強化 ○</p> <p>A Bクラスのアドバイザーは2名体制とし、学生へのサポートを強化する。本年度も「学生とクラスアドバイザーの個人面談」を年2回実施して、きめ細やかな支援を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個人面談は、前期1回、後期1回を設定し、アドバイザーによる、一人あたり30分程度の面談を実施した。 ・面談終了後、面談記録票により学科長まで報告することになっているが、アドバイザーによっては、報告期限を順守できない教員もいた。 ・所属の全教員は週1回以上、オフィスアワーを設定して「フリー個人相談」にも応じ、休・退学の減少、学内進学・就職率の向上等にも努めた。 ・次年度は、卒業年次生の個人面談を充実させ、キャリア支援相談にも対応していく。 	<p>3</p>
<p>○「国語力向上特別講座」開催 ○</p> <p>保育者としての重要な役割として、コミュニケーション能力、保育日誌、連絡帳の表記等、豊かな国語力が望まれる。そこで、国語力の向上を図ることを目的に、当科「国語表現」授業担当者による「国語力向上特別講座」を開催する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講座はクラスセミナーの時間帯を利用して、各学年とも2回ずつ実施した。 ・講座担当者が「保育専門用語」の冊子を作成、学生に配布し、自学自習を促す。 ・学生は保育専門用語の小テストを受け、それぞれの学習の成果を確認することができた。 ・次年度についても新任教員に講座を引き継いでもらい実施する。 	<p>4</p>

H30 年度計画事項	H30 年度実施状況	評価 (5段階)
<p>○「コンピュータ特別講座」開催 ○ 情報活用能力の基となる、パソコンネットワークスキル・知識への学生の関心は高く、また、社会のニーズも高い。そこで、経験差によるスキルレベルや、ニーズに対応したコンピュータ特別講座を学生支援プログラムの一つとして、希望者を対象に時間割外に開講する。 なお、学生休業中に行う講座は、半日から2日間の集中講義で実施する。</p>	<p>【前期の実施状況】 ・実施期間：5/23(水)～7/26(木) ・延べ実施回数：24回 ・延べ受講者数：150名 [内訳] 1. タイピングスキル向上講座 …実施回数：3回 受講者数：13名 2. デジタル地図サービスの活用講座 …実施回数：14回 受講者数：82名 3. Wordを活用した「指導計画案」の作成 …実施回数：9回 受講者数：55名 【後期の実施状況】受講者を募ったが、希望者がおらず、実施には至らなかった。 ・次年度についても年間を通して実施していく。</p>	2
<p>○「ピアノレッスン・サポートプログラム」開催 ○ 「ピアノ演習」授業、補習授業以外にも気軽にピアノレッスンを受けることができる学生支援プログラムを、希望者を対象に開催する。ピアノ演奏技術の向上と、2年次の「ピアノ演習」再履修者数の減少も目指す。</p>	<p>【実施状況：6回開催/延べ30名が受講】 ・1・2年A Bクラス 担当：渡邊聡子非常勤講師 *1回につき8名まで 5/8(火)7名、5/15(火)5名、7/10(火)4名、 7/17(火)4名 ・1年C Dクラス 担当：浅野洋子講師 8/28(火)10:30～12:00 4名、16:10～17:40 6名 ・次年度については、前期のみ日時を定めず、希望者を対象に実施する。</p>	2
<p>○ 成績不振の学生への支援 ○ 卒業のみを目指す学生、実習履修制限適用学生との懇談会を学科長主催で開催する。</p>	<p>成績不振の学生との懇談会は開催できなかったが、成績発表時の個別履修指導の際、個人面談は実施した。次年度も個別面談の形式で実施していく。</p>	2
<p>○ 連続欠席者の早期対応と休学者への電話連絡等の徹底 ○ 学生指導強化の一環として、連続欠席者のチェックを行う。授業担当者は速やかに所定の用紙で報告し、クラスアドバイザーは学生に出席を督促し、授業担当者にも指導結果を報告する。そして、各学年の休学・退学者を5名以内に抑えるように努める。 また、クラスアドバイザーは、休学者の近況を把握し、復学しやすい環境作りを目的に、4か月に1回は電話連絡を入れ、所定の用紙にて学科長に報告する。</p>	<p>・連続欠席者のチェックは年間を通して実施したが、卒業年次の学生1名が卒業必修科目「英会話Ⅰ」が欠格となり残念な結果となってしまった。 ・本年度、休・退学者は次の通りである。 1年次休学者1名、退学者4名、2年次退学2名。 その理由は、経済的な理由と心身の健康状態によることが大半を占めていた。 ・休学していた学生1名が次年度2年次に復学することになった。旧教育課程適用の学生だが、5科目9単位分を履修して単位を取得すれば、資格・免許状も取得して卒業ができる見込みである。履修指導を徹底したい。</p>	3

H30 年度計画事項	H30 年度実施状況	評 価 (5 段階)
<p>○「保育学科ニュース」の発行 ○ 学科の教育方針や運営状況などを学生、学生のご家族の方、及び学内教職員に周知して理解を得られるように、年間を通じて保育学科ニュースを作成して配布していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育学科ニュース(1・2年) … 年7回発行 内容: 期末試験の留意点、実習や成績に関する連絡など ・学生のご家族宛文書(1・2年) … 年4回送付 内容: 前期: 各種実習に関すること/後期: 成績に関すること ・学内教職員 … 年2回発行 内容: 学科行事の紹介・報告など ・次年度は、保育学科ニュースにおいて、キャリア支援に関する記事も掲載し、学生に伝えていく。 	4
<p>8. 特色ある行事・授業 ○ 手遊び講座 *保育学科学友会主催 ○ 学生間の交流とこれからの学外実習に向けて、保育技術向上を図ることを目的に学科学友会で企画、実施する。 ・期 日/4月中・下旬: 5時限 ・会 場/カーサ21・C32</p>	<p>本年度、参加人数は多くはないが、前期だけではなく、後期も開催することができた。1・2年生の学生間の交流と1年生はこれからの学外実習に向けて、保育技術向上を図ることができた。 *期日・参加人数 4月25日(水)5時限 … 16名 11月27日(火)5時限 … 20名 ・次年度においても前・後期1回ずつ実施を目標に計画を進めていく</p>	5
<p>○ バリ島海外研修旅行(履修希望者) ○ 本学の特色ある教育の一つでもある「国際理解教育」の一環として、現地の方々との触れ合いや、異文化等を体験的に学ぶ機会として実施する。本年度、研修時期と期間を見直し、学生の旅費負担額の軽減と体調管理を配慮した6日間の日程で計画する。 ・期 日/8月20日(月)~25日(土)【4泊6日】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当初、保育学科は履修希望者が8名いたが、その後4名に減少した。 ・しかし、履修届の締め切りである5月末日までに、履修届の提出がなかったため、開講中止とした。 ・次年度においても実施に向けて計画をして履修者を募っていく。 	1
<p>○ 生活教養「テーブルマナー演習」(1年生) ○ *こども学科と合同実施 「西洋料理のテーブルマナー」を実践的に学習することを目的に実施する。併せて「冠婚葬祭のマナー」授業の一環として、現代のブライダル事情の特別講義や模擬挙式の体験を通して招待客のマナーを学ぶ機会とする。 ・期 日/9月1日(土) ・会 場/ウェディング エルティ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日時・対象・人数等 平成30年 9月 1日(土) 11:00~13:30 … 145名 こども学科1年生: 出席34名(37名中、欠席3名) 保育学科1年生: 出席109名(110名中、欠席1名) 担当者: 2名/渡辺雅子(授業担当者)・高橋雄二講師(保1Aアドバイザー) ・会 場 … ウェディング エルティ 1階 スクエア ・次年度においても2学科合同、実施時期は8月31日土曜日開催とする。事前授業において、身だしなみ等の指導を徹底する。 	4

H30 年度計画事項	H30 年度実施状況	評価 (5段階)
<p>○ 国内研修旅行 ○</p> <p>*本年度から保育学科単独で実施 保育者を目指す者として必要な知識・教養などを、体験を通して学ぶことを目的に実施する。 1年ABクラス ※原則、全員参加。</p> <p>・期 日/9月27日(木)～28日(金)</p> <p>・研修先 米沢研修【普慈幼稚園・浜田広介記念館など】 *日帰り 栃木研修【保育施設(須賀川市内)・那須ハイランドパーク・いわむらかずお絵本の丘美術館・ムシテックワールドなど】 東京研修【品川区保育園・劇団四季ミュージカル「アラジン」or「ライオンキング」鑑賞、東京ディズニーシーなど】</p>   	<p>保 AB「国内研修旅行」実施概要は以下の通り。</p> <p>米沢研修コース [9月27日(木)] 参加者:38名 研修先:普慈幼稚園、浜田広介記念館、 引率者:中野明子講師、佐久間正弘講師 栃木研修コース[9月27日(木)～28日(金)]参加者: 14名 研修先:幼保連携型認定こども園オリーブの木、ムシテックワールド、那須ハイランドパーク、いわむらかずお絵本の丘美術館 引率者:高橋雄二講師 宿泊先:ホテルエピナール那須 東京研修コース[9月27日(木)～28日(金)]参加者: 37名 研修先:1日目:劇団四季ミュージカル「アラジン」鑑賞、東京ディズニーシー 2日目:品川区立八潮南保育園、品川区立八潮西保育園 引率者:◎酒井 創准教授、関本 仁講師 宿泊先:品川プリンスホテル</p> <p><全体を通しての反省と次年度に向けた申し送り事項> [米沢研修コース]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 寝坊のため学生1名が欠席。集合時間を厳守するよう指導を徹底したい。 2. 次年度も大型バスであれば、乗降場所からの徒歩移動を考慮し、出発時間を10分早める。(中型バスは園内駐車場に停車可) 3. 浜田広介記念館での館長等の講話時間は事前に連絡しておく。 <p>[栃木研修コース]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「会席料理のテーブルマナー講習」は、和食の所作をわかりやすく学べ、料理も美味しかったが、約2時間30分の時間を要したため学生の疲れが見られた。次年度は1時間30分程度での実施をお願いしておく。 2. ホテルの部屋は2タイプが割り当てられた。部屋割により不公平感が生じたので、次年度は同じタイプの部屋を依頼しておく。 <p>[東京研修コース]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 今回は課題となる反省・申し送り事項はなかった。それは、これまでの研修内容・行程等、全面的な再評価と検討を実施。その内容を忠実に実践したためと考える。 2. 次年度、品川区の「子育て支援事業」に大きな変更がなされる可能性がある(保育園、幼稚園等の統廃合)。次年度の保育施設研修は、これを踏まえた上で選定する。 3. 2020年の東京オリンピック開催に向けて、次年度あたりから宿泊先の確保が困難になると予想されるため早めに対応する。 	<p>4</p>

H30 年度計画事項	H30 年度実施状況	評 価 (5 段階)
<p>2年CDクラス ※原則、全員参加。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期 日／9月28日(金)～29日(土) ・研修先／関東方面【認定こども園「こどものもり」、劇団四季ミュージカル「アラジン」鑑賞、東京ディズニーシーなど】  	<p>保CD「国内研修旅行」実施概要は以下の通り。</p> <p>日 時：9月28日(金)～9月29日(土)</p> <p>研修先： 1日目：認定こども園「こどものもり」、東京ディズニーシー 2日目：浅草寺～瓜生岩子女子の銅像(浅草から日の出浅橋：水上バスで移動)、浜離宮恩賜公園、劇団四季ミュージカル「アラジン」鑑賞</p> <p>参加者：22名 引率者：藤本 要准教授、オカンポ・メリッサ講師 宿泊先：アパホテル&リゾート〈東京ベイ幕張〉</p> <p><全体を通しての反省と次年度に向けた申し送り事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・浅草周辺の研修は、雨が降り天候に恵まれなかったこともあり、学生はあまり楽しめない様子であった。滞在時間も1時間だったため短かったとの意見があった。 ・次年度、お台場の「森ビルデジタルアートミュージアム」のチケットが入手できれば、研修先として検討していきたい。 	4
<p>○ スポーツ大会 ○</p> <p>行事の企画・運営等について直接体験し、学科、学年、クラスを超え参加学生・教職員との交流・親睦を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期 日／12月15日(土) ・会 場／福島市西部体育館 ・対 象／保育学科全学生 	<p>「スポーツ大会」実施概要は以下の通り。</p> <p>日 時：12月15日(土)9：55～15：30</p> <p>会 場：福島市西部体育館</p> <p>参加者：保育学科全学生 教職員：17名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に学友会役員で下見を十分に行っていたため、運営上について特に問題はなかった。しかし、会場内に暖房設備がないので非常に寒く、怪我をした学生が数名見られた。次年度は、レクリエーション・ゲームを取り入れるなど、内容を検討していきたい。 ・次年度の会場は、福島市国体記念体育館としたい。会場が確保できない場合は、福島市西部体育館も検討する。 ・次年度の会場が福島市国体記念体育館となった場合、今回同様に学生のバス利用のアンケートをとり、宮代キャンパスと福島駅西口出発のバス台数を決定する。 	3
<p>○ 『音楽演習(ポップスの世界)』発表会(1年生：履修者) ○</p> <p>本学の特色ある教養教育科目の一つとして、歌唱やダンスなどの表現力、感性を高めることを目的に実施する。発表会は年間3回程度とする。年度末には舞台装置を使用して行う。</p> <p>ただし、舞台装置にかかる経費削減と観客動員を図るため、本年度も創作ミュージカル発表会と同日開催とする。</p>	<p>「音楽演習(ポップスの世界)」発表会と「創作ミュージカル」発表会を同日に開催した。会場は、カーサ・フローラ 千葉記念ホール。</p> <p>「音楽演習(ポップスの世界)」発表会</p> <p>1月26日(土)13：00～13：30</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日ごろの練習の成果を發揮し、予定通り進めることができた。 ・次年度は半期科目になるため、発表会は授業最終日(9月6日(金))に図書館情報センター・情報スタジオで実施する。 	4

H30 年度計画事項	H30 年度実施状況	評価 (5段階)
<p>○『創作ミュージカル』発表会（2年生:履修者）○ 保育学科で学んだ集大成とも言えるこの授業は、ミュージカルという総合芸術を作り上げる過程や発表会を通して、表現力の向上やコミュニケーション能力の育成を図ることを目的に実施する。さらに、保育者として、行事運営に関わるその実際も体験を通して学んでいく。 *全クラスで実施できるように土曜開催。</p>	<p>「創作ミュージカル」発表会 1月26日(土)14:00～16:40 ・全クラス合同で実施したせいか、発表会終了時間が40分程度長引いた。次年度は、脚本構成の段階から、上演時間の制限や内容の簡略化などの指導を細かく指導していきたい。また、前期から脚本に関する助言や手伝い学生への周知などを計画的に進め、学生に負担のないように工夫して指導していく。</p>	4
<p>9. 教員免許状更新講習会 ～募集人数は各領域126名！ 「教員免許状更新講習会」も平成30年度で11年目を迎える。 昨年度は学生の実習先である幼稚園、保育所等から、募集定員増の要望が多く寄せられ、また、数年前から受講対象者も拡大されたこともあり、募集定員を120名とし、大教室に収容できる最大人数の126名で実施をした。本年度も同様とする。 平成30年度の変更点（概要） *募集人数を126名（2クラス体制）までとする。 *文科省から『心のバリアフリー』の講習の開設を検討するよう通知があったため本年度から取り扱う。 *日 程 必修領域（6時間）…7月28日(土) 選択必修領域（6時間）…7月30日(月) 選択領域（18時間）…8月8日(水)・9日(木)・10日(金)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実施人数：必修領域・選択必修領域 126名／選択領域 125名(2名欠席)で日程通り実施することができた。〔全体をとおしての反省と次年度に向けた申し送り事項〕 ・A・Bクラス担当者に、女性教職員を各1名以上配置する。(女性受講者対応のため) ・修了試験時に、答案を持ち帰りそうになった方が2名いたので、試験監督の担当者は念を押してアナウンスする。 ・遅刻、早退など、規定時間受講できなかった場合には、講習の受講認定ができない旨、受講者宛の通知に明記しておく。 ・今年も台風の接近があったため、可能であれば台風や地震などの天災等に備えて、補講のための予備日を設定し、あらかじめ受講者に通知しておく。 ・今後、運営スタッフの手当支給も検討する。 	5
<p>10. FD研修の実施 ○こども・保育学科合同FD研修会の開催○ 教員の教育力、資質向上のためのFD研修会をこども学科、保育学科合同で開催する。学生の資格・免許状取得のための教育の充実と徹底、科内教員の共通理解も図っていく。</p>	<p>こども学科と合同で、前期1回、後期1回開催した。 第1回 6/21「就職状況29年度の結果と30年度の傾向と対策」 ～各授業を通して専門職者としての意識をいかに高めるか～ 講師：菅田清正学生部長・キャリア支援室長 第2回 10/18「アクティブラーニングの実践について」 講師：木村信綱准教授 *オープンキャンパスの模擬授業（50分）を課題にアクティブラーニングを取り入れた授業デザインの実践を行った。</p>	3

H30 年度計画事項	H30 年度実施状況	評 価 (5 段階)
<p>○ 非常勤教員FD研修会の見直し ○ 本年度の非常勤教員数は、保育学科は21名の予定である。 例年、参加状況からみて、全員参加の非常勤FD研修会を開催することは難しい。 本年度も、懇談が必要な方(新任の方、授業参観の結果が思わしくない方、学生から改善の要望がある方など)、複数で同授業科目を持っており調整が必要な場合など、実情に応じて、少人数による懇談会を不定期で開催していく。</p>	<p>・ピアノ演習授業担当者とのFD研修会を実施し、ピアノ演習指導の共通理解を図ることができた。 ①4月4日(水)10:30~12:00 ②9月11日(火)12:10~13:30 ・学生から授業改善の要望があった非常勤教員との懇談を複数回実施した。</p>	2
<p>11. 「教育・保育論集」の発行 「教育・保育論集」は、平成24年7月に復刊して以来、第22号(平成29年12月)まで発行している。本年度も、こども学科等と協力し、教育・保育現場での課題などを取り上げる。 併せて、本学教員の研究業績発表の機会となるように、また実習先や本学学生にも参考となる論集とする。</p>	<p>本年度も発行に向けて準備をしていたが、当初、本論集に掲載する予定の論文を、本学研究紀要に掲載することになったため、本年度は発行を見送ることとなった。 次年度は、今般掲載予定であった論文も含めて発行する。</p>	1
<p>12. その他 ○ 学科評議会 ○ 年2回(6月・12月)開催する。</p>	<p>年2回開催した。概要は以下の通り。 日時 … 6月23日(土) 9:30~11:30 意見聴取事項 (1) 平成30年度 保育学科「教育運営計画」について ～新規事業を中心に (2) 平成30年度「教育実習」基本実習について (3) 平成30年度前期「施設実習」実施状況と課題等について 懇談事項 ・保育士養成課程の見直しについて ～平成31年度保育学科「教育課程」の改正に向けて 日時 … 12月7日(金) 15:00~17:00 意見聴取事項 (1) 本年度(4月~12月)の保育学科の教育・運営状況(報告)について ~ 次年度の改善に向けて (2) 福島東稜高等学校と本学保育学科との「高大接続教育(連携授業)」の実施状況について(中間報告) (3) 「教育・保育実習」の課題について ~ 次年度の実習指導(施設実習・保育所実習・教育実習)に向けて</p>	3

H30 年度計画事項	H30 年度実施状況	評 価 (5 段階)
<p>○ 実習先との意見交換会 ○ *こども学科と合同実施 保育実習先(保育所・施設)との意見交換会を 10月下旬、11月下旬に開催する。</p>	<p>「保育所・施設実習先との意見交換会」を下記の通り実施した。 日 時：(保育所) 平成30年10月24日(水) 14:30～17:10 (施設) 平成30年11月14日(水) 14:00～16:30 会 場：ウェディングエルティ 出席者：(保育所) 保育所(園)側出席者19園20名 ／本学出席者11名 (施設) 施設側出席者13施設14名／本学出席者 10名 [保育所] ・実習先でのボランティア活動等を通して園の雰囲気に慣れ、子どもとかわる経験を積み、自信を持って実習に臨めるよう指導を徹底していきたい。 ・各保育所の先生方から実習状況の聞き取りだけでなく、今後の指導の方向性について、意見交換を活発に行うことができた。次年度も本年度の反省を生かし、より良い実習指導に繋げる。 [施設] ・各施設の先生方から、巡回指導だけでは把握できない学生の実習状況も伺うことができ、より活発に意見交換をすることができた。次年度も本年度の反省を生かし、より良い実習指導に繋げたい。</p>	5
<p>○ 学科関連規程の改正 ○ 保育科長賞授与規程、千葉記念賞授与規程の改正を行う。</p>	<p>・短期大学部学長賞の一部改正や保育学科名の変更等の理由により、保育科長賞授与規程の一部改正を実施した。*平成30年10月1日から施行。 ・教務課所管である千葉記念賞授与規程についても、保育学科名、授業科目名変更等により改正をお願いした。 *平成30年10月1日から施行。</p>	5
<p>○ ウェブを活用した情報発信 ○ 学生募集につながるよう、保育学科行事、特色ある授業の紹介、保育学科学友会行事、ボランティア活動など、通年20件程度(毎月1～2件)、本学ホームページ上に掲載する。 担当は各授業担当者、行事等の責任者とする。</p>	<p>・少しでも保育学科の学生募集につながるよう、本年度は目標値を決めて、科内教職員で取り組んだ。 ・目標は20件程度としていたが、42件(2019年3月20現在)を学内外に向けて情報発信することができた。 ・次年度においても保育学科行事や特色ある授業の紹介を継続実施していく。</p>	5

2. 計画記載以外で実施した事項の報告と評価

H30 年度計画事項	H30 年度実施状況	評価 (5段階)
<p>1. 「保育学科履修細則」の制定</p>	<p>【制定の事由とこれまでの経緯】</p> <p>平成 31 年度からの保育学科教職課程の再課程認定の申請書類作成時に、短期大学部学則（教育課程の別表を含む）には、認定を受けようとする課程の授業科目・単位数及び履修方法等が、明確に規定されていないことがわかった。</p> <p>学則に規定されていなければ、学則に加えて、これらが規定されている規程（履修規程など）を添付することとなり、急きよ「保育学科履修細則」（案）を作成し、昨年度末に再課程認定申請時に申請書の書類の一部として提出した。</p> <p>なお、その際、幼稚園教諭二種免許状取得の科目以外に、保育学科で取得できる保育士資格取得にかかる科目、幼稚園教諭二種免許状および保育士資格の両方を取得するための科目の履修についても定めている。</p> <p>その後、平成 31 年度保育士資格取得にかかる教育課程も改正することになり、保育士資格取得にかかる授業科目、授業形態、単位数等の大幅な改正が行われたため、保育学科履修細則の別表 1、2、3 を修正し、次年度に向けて「保育学科履修細則」を制定した。【制定年月日】 2019 年 4 月 1 日</p>	<p>5</p>
<p>2. 「高大連携授業」の実施</p> <p>【テーマ】 『ねらい』を定めた保育の遊び／活動をデザインしてみよう！</p>	<p>昨年度 1 1 月下旬から 1 2 月中旬までの 3 週にわたり、保育学科としては初めての試みで「福島東稜高等学校との高大連携委授業」を何とか実施することができた。保育系大学・短期大学・専門学校への進学を目指している福島東稜高等学校普通科キャリアデザインコース（子ども文化系）2 年生 3 1 名と保育学科 2 年生有志 9 名を対象とした。</p> <p>*実施概要</p> <p>【第 1 週】 11 月 28 日（水）1・2 コマ / 14：30～16：30（120 分）</p> <p>講義①：保育とは 講義②：幼児の発達とは（発達に応じた遊びとは） 講義③：認定こども園について</p> <p>【第 2 週】 12 月 5 日（水）：前半（3 コマ）・後半（4 コマ） 3 コマ / 14：30～15：20</p> <p>園長講話 認定こども園 園児とのふれあい（踊り・歌遊びに一</p>	<p>3</p>

H30 年度計画事項	H30 年度実施状況	評価 (5段階)
  	<p>緒に参加) ハンドベル・トーンチャイム演奏など 4コマ / 15:30 ~ 16:30 幼児の観察・子ども理解に基づいた「ねらい」の設定づくり 「ねらい」を達成させるための「遊び」を作るグループワーク 各グループの報告 本日のまとめ/次回への課題説明</p> <p>【第3週】12月12日(水):前半(5コマ)・後半(6コマ) 5コマ / 14:15 ~ 15:10 (55分) 前回のふり返り(質疑応答) グループワーク/「遊び」の計画案を各自で作成、グループリーダーがまとめる 6コマ / 15:15 ~ 16:30 「遊び」の計画発表準備 グループごとの発表【1グループ:5分×6グループ】 講評に対する質疑応答・集約 大学生から高校生へ伝えたいこと 全体のまとめ・コメントシート記入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に計画を始動させるのが遅く、後手に回ってしまった。 ・内容を詰め込みすぎてしまったことで、時間が押してしまう場面が多々生じた。 ・次年度においても本学保育学科への進学に繋げることも目的に、今回の反省点を踏まえて、継続して実施していく。 ・実施にあたり、本学認定こども園での授業が高校生にとっては大変有意義で印象に残った授業内容の一つにあげられたため、本学認定こども園の協力も得て実施していきたい。 	

3. その他(特記したい事項)

H30 年度計画事項	H30 年度実施状況
該当なし	

短期大学部食物栄養学科

学科長・教授 小瀧 裕一

1. 記載事項の実施に関する報告と評価

H30 年度計画事項	H30 年度実施状況	評 価 (5 段階)
<p>1. 教育活動及び学生募集</p> <p>①食物教育をベースとした人間教育</p>	<p>人間の生命活動の基本である食にまつわる様々な科目を学習することにより物事を科学的に思考し解決する能力を高める。この目的に沿う各科目の到達目標をクリアし所定の単位を取得すると卒業が可能になり、卒業後有為な社会人として様々な分野で活躍することが期待できる。学生達の履修科目の期末試験、レポート等の評価得点は、卒業および進級に値するレベルに達し（卒業認定 92%、進級認定 100%）、教育目的を達成するのに十分な現段階の成果が得られたと言える。</p>	<p>5</p>
<p>②栄養士免許資格取得の徹底</p>	<p>上記の科目に加えてさらに専門的な科目を履修し、それらの到達目標をクリアすると、栄養士の免許取得に必要な単位が取得できる教育課程を構成しているが、学生達の評価得点は、程度の差はあるものの全員栄養士の資格を取るに値するレベルに達し、100%が栄養士の資格申請可の状態で卒業することができた。</p> <p>当面の目標はクリアできたと言える。</p>	<p>5</p>
<p>③多様化した学生への対応</p>	<p>各教員が特色ある授業を創意工夫するとともに、教員間の普段の情報交換や学科内 FD 活動も加えて、多様な学生達の勉学意欲を常に維持するよう努めた。それらは以下のとおりである。基礎系講義及び実験科目（食品学総論、同実験、栄養学総論、生化学、同実験）。元々食べ物を作る事が好きな学生達の興味をさらに伸ばす科目（調理学、同実習、食品加工学、同実習等）。学生達の勉学モチベーションが高い栄養士としての専門科目（栄養指導論、同実習、給食管理、同学内実習及び校外実習、臨床栄養学、同実</p>	<p>4</p>

H30 年度計画事項	H30 年度実施状況	評 価 (5 段階)
	<p>習等)。基礎系科目に関しては、1 年次開講の科目内及びクラスセミナーを使って基礎化学及び基礎計算の補講を実施した。1 年次である程度の手応えがあったが、2 年次にまでその効果を持続させ、栄養士実力認定試験の成績にも反映させるには今後のさらなる工夫が必要と考えられる。調理・加工実習科目や主に 2 年次に開講される栄養士特有の専門科目に関しては、具体性が高いだけに教育効果は大きく、今後も継続することが学生の成長に必要と考えられる。</p>	5
⑤学科 FD 研修会	<p>今年度は、専任教職員のみで 1 回、専任教職員の他に非常勤・兼任兼担教員を交えて 1 回の FD 研修を実施した。主なテーマは、授業を実施して得られた各学生の情報を共有することで、参加教員の具体的な授業の状況を聞くことができ、その後の個別指導に有益であった。</p>	5
⑥計画的学生募集活動の推進	<p>近年の学生の卒業時の成績レベル (GPA) と高校の偏差値および評点レベルの相関を分析 (H30 年 3 月科内 FD) し、質的数的に重要と認識された高校 (福島県内 9 校、宮城県内 3 校、山形県内 3 校) には入試広報課を通して可能な限り積極的に働きかけた。その他の方策として、9 テーマの特別研究やボランティアとしての地域連携活動等を積極的に実施し、学生達の食のスペシャリストとしての総合力を高めるとともに、その結果を Web、新聞、テレビ等でアピールした。またオープンキャンパスや高校を訪問しての模擬授業でも本学科をアピールした。これらの活動の効果は、次年度の学生数増加に大きく現れることはなかったが、今後も継続していきたい。</p> <p>食物関連民間資格 (フードスペシャリスト、フードサイエンティスト等) が卒業後役立つことはほとんどないと考えられるが、学生募集には有用なことから、軽微な科目変更等を行うことにより民間の食物関連民間資格を取得あるいは受験することが可能になる場合には、検討・実施する予定であったが、今年度は未実施に終わった。</p>	4

H30 年度計画事項	H30 年度実施状況	評 価 (5 段階)
<p>2. 学生支援 ①化学、生物の基礎知識入学前問題練習及び授業開始後の補講</p>	<p>栄養素の化学や身体の構造を良く理解した栄養士を輩出することを重要と考え、中高で化学・生物の基礎を十分習得してきていない新入生や習っても忘れた新入生のために、入学前に化学と生物の基礎知識問題を送付し、4月のオリエンテーション参加時に提出してもらい、採点を行い返却すると共に食品学総論などの基礎科目の中や、クラスセミナーの中で復習や練習問題をしてもらった。その後の総論関係授業での感触からすると、一定程度の効果は得られたが十分とは言えないと考えている。</p>	<p>4</p>
<p>②オリエンテーション</p>	<p>入学後の円滑な授業展開のため、入学式前後合わせて3日間のオリエンテーションを実施した。その過程でクラス運営のための委員選びを行うと共に、新入生のクラスの様子を知ることができた。2年生に関しては、卒業に向けての重要な注意点の啓発を行った。</p>	<p>5</p>
<p>③クラスアドバイザー・オフィスアワーの設定による個別指導</p>	<p>1年生、2年生それぞれクラスアドバイザーを決め、毎週のクラスセミナーなどで諸連絡や相談を実施した。2年生に関しては、特にキャリア支援課と連携して就職に関する連絡や個別相談を実施した。学生達の相談に乗るのは、クラスアドバイザーに限らず授業を持っている専任教員や副手もその任に当たり、個人情報に注意しながらも、問題点を早めにつかみ、学科全体で共有するように努めた。専任教員は、授業時の他オフィスアワーを決めて学生が個別相談に来易いように配慮した。男子が少ない例年に比べて今年度の1年生は男子が50%の割合でいたことから、クラス運営や授業の雰囲気もかなり異なっていたが、何とか協力して進めることができた。</p>	<p>5</p>
<p>④授業欠席者の早期発見・早期指導</p>	<p>専任・非常勤教員は、担当科目において学生が半期終了科目および通年科目で2回連続あるいは計3回授業を欠席した時点で、クラスアドバイザーにその旨を報告することとした。クラスアドバイザーは、学生に事情を確かめながら指導することにより卒業要件や資格取得要件を欠く学生の早期発見に努めた。この努力は良く機能し、深刻な状況になる前に問題学生を発見、指導することができた。</p>	<p>5</p>

H30 年度計画事項	H30 年度実施状況	評 価 (5 段階)
<p>⑤ご家族個別相談会の実施 2 回実施 5 月 26 日 (土) 10 月 20 日 (土)</p>	<p>「学生生活における悩み」、「勉強の仕方」、「進路の悩み」、「編入学」等内容制限を設けない相談会を、学生とご家族の両者を対象に開催した。決して多くの参加ではなかったが、編入希望や家庭内での問題などを把握し個別指導に役立てることができた。</p>	<p>5</p>
<p>⑥栄養士実力認定試験に向けた支援</p>	<p>栄養士実力認定試験の受験は、任意ではあるが、本学科では 2 年生全員に受験を勧めるとともに 5 年間の過去問の問題集を購入してもらい、クラスセミナーや自宅での学習ができる様にした。しかし今年度の 2 年生は真剣に過去問学習に向き合ったものが少なかった様子で、A ランク 1 名のみという成績であった。</p> <p>この学年は、コストパフォーマンスを考えて少なめの科目履修をする傾向にあったが、その傾向を打破できなかった。今後はクラスの傾向を見ながら、授業内で過去問を学習させたり、1 年次で終了した科目は、自宅学習を強く勧めるかクラスセミナーでの補講を入れるなどして、学習効果を上げていく必要がある。</p>	<p>3</p>
<p>⑦国内研修旅行 1 年生：9 月 25 日 (火) 2 年生：9 月 27 日 (木) ～ 28 日 (金)</p>	<p>授業で学んだ食品製造の知識を実際に見学して学び、さらにその根底にある安全性の確保や製品を提供する際のもてなしの心を学ぶ目的で実施した。</p> <p>1 年生は、日帰りで山形県米沢方面 2 ケ所 (①高島町のセゾンファクトリー；素材より美味しくをモットウとしたフルーツジュース、ジャム、酢などの製造の見学、②日東ベストは嚙下力の弱った方向けの業務用「やわらか食」家庭用介護食などをおもに製造販売しているが、今回は研究所見学で、主に商品開発や衛生管理等の勉強) を見学した。</p> <p>2 年生は、1 泊 2 日で関東方面 5 ケ所 (①カップヌードルミュージアム横浜、②東京ディズニーランド、③カゴメ (株) 那須工場、④お菓子のハートランド、⑤那須ステンドグラス美術館) を見学した。</p> <p>いずれの学年も参加者は 50% 程度で高くはなかったが、アンケート結果では参加者の満足度はいずれも高かった。今後は参加率を上げる工夫が必要である。</p>	<p>4</p>

H30 年度計画事項	H30 年度実施状況	評 価 (5 段階)
<p>⑧陳建一客員教授特別調理実習 12月8日(土)3,4限</p>	<p>中国料理の専門家である本学客員教授 陳建一氏による四川料理特徴解説と調理実演、調理指導および完成料理の試食を体験させることで、学生の異文化食への更なる学習意欲の向上を図ることを目的として実施した。</p> <p>こだわりの本格「陳麻婆豆腐」と福島産食材(地鶏)を使った「宮保鶏丁(鶏肉とナッツの唐辛子炒め)」、レタスを使った料理の計3品について調理実演をしていただき、本格「陳麻婆豆腐」に関しては全学生に対して調理実習指導をしていただいた。陳客員教授の調理実演および学生調理実習の完成品については試食を行った。</p> <p>各場面でのユーモアあふれる適切な技術的解説・指導に加えて、調理をする場合の心構えなども嫌みなくちりばめられていて、学生達には大好評であった。</p>	<p>5</p>
<p>3. 地域貢献 ①食物栄養学科セミナー開催 11月10日(土)</p>	<p>昨年度から実施しているスポーツ栄養シリーズの第2弾として「青少年と地域住民の健康増進のためのスポーツおよび運動栄養学」のタイトルで実施した。今年度は、実際に体育大学で運動部の栄養指導をしておられる仙台大学の岩田純准教授をお招きして運動部に対する指導事例および公認スポーツ栄養士の実態を講演していただいた。また本学の体育非常勤講師金野麻衣先生には成人以上の方々にも有益な、家庭や職場で簡単にできる軽運動を、実際に会場で指導していただいた。その他本学講師陣の基礎栄養学講演やサプリメントの摂り方に関する講演と試食も実施した。内容的には本学学生と地域の成人向けで、参加者は学生36名、地域住民14名であった。今回は日程が地域の各種イベントとぶつかっていたこともあり、地域住民の参加が少なかった。しかし内容に関する参加者の評価は参加した学生、地域住民ともに高かった。</p>	<p>4</p>
<p>②地域連携活動</p>	<p>今年度は学生の参加するほとんどの地域連携活動は特別研究として実施した。どのテーマも単位取得のためにいやいや参加する学生はおらず、地域の方々との交流をしながら、プロジェクトの目的に沿った活動をし、最後に客観的なまとめをして合同発表会で発表することにより、食のスペシャリストとしての総合力アップを目指した。</p> <p>テーマは以下のとおりである。</p>	<p>5</p>

H30 年度計画事項	H30 年度実施状況	評 価 (5 段階)
	<ol style="list-style-type: none"> 1. りょうぜん里山プロジェクトー「大学生の発想によるけんぽく「食」と「農」の魅力発信」ー 2. 土湯源泉タマゴレシピ開発ー土湯温泉源泉タマゴの食べ方提案ー 3. 「親子で作るまごころ食育お弁当」コンクールの一次審査と二次審査見学 4. 美味しいソフト食メニュー開発 5. 道の駅 伊達の郷りょうぜんプロジェクトー霊山の食材使用食品 / 食事開発と製造・販売体験ー 6. 福島市公設地方卸売市場第 35 回「わくわく市場まつり」プロジェクトーエコキャップ回収運動協力カップケーキ作製・配布ー 7. チャレンジ福島県民運動委託事業プロジェクトー働き盛りのためのヘルシーランチメニュー開発ー 8. 立子山凍み豆腐プロジェクトー立子山産凍み豆腐の若者向け食べ方提案ー 9. 「ふくしま県民運動フェスタ 2018 出展」プロジェクト 	

2. 計画記載以外で実施した事項の報告と評価

H30 年度計画事項	H30 年度実施状況	評 価 (5 段階)
<p>①おやこ遠足ふくしまパクパクバスツアー協力 3月9日(土)</p>	<p>福島の食農教育および放射能風評被害払拭を目的とした福島民報社と JA 福島主催の「おやこ遠足ふくしまパクパクバスツアー (今回テーマ: 県産大豆の魅力)」に協力し、福島市内の親子 40 組に対して本学調理実習室で橋本講師による味噌を使った料理教室を実施した。その他には、同実習室にて内池醸造による「親子で手作り味噌を作ろう」体験実習、および東京都市大学岡田住子准教授による「霧箱装置による放射能観察実験」が行われた。福島民報社と JA 福島の主催ということで、広報や材料調達も容易であり次年度からは、時期を早め発案段階から積極的に関わっていくのが望ましい。</p>	5

3. その他（特記したい事項）

H30 年度計画事項	H30 年度実施状況
<p>① 勉強意欲エンハンス策 成績優秀者、成績向上者に対する記念品贈呈 1月17日（木） （於 食栄学生・教員合同送別交換会）</p>	<p>多様化した学生に対しては各教科で個別指導を工夫して進めているが、学生各人の勉強モチベーションはみな異なっていることから、各人の勉強チベーションを保つ一方策として、今年度から半期毎（一年前期と学期末、一年学期末と2年前期）の成績（GPA；単位当たり平均点）を比較して、90点以上を持続できた学生に「グッド GPA 賞」、GPA 上昇がめざましい学生に「グッドプログレス賞」として記念品を贈呈することとした。</p> <p>第1回目は2年生のみが対象で、贈呈は1, 2年生全員が集まる食栄学生・教員合同送別交換会で行った。「グッド GPA 賞」が3名、「グッドプログレス賞」が9名であった。今回の記念品は、それぞれパーカーボールペンおよびウエザーインフォクロックであった。第2回目以降も継続して勉強意欲上昇の効果を上げていく予定である。</p>

短期大学部情報ビジネス学科

学科長・准教授 木村 信綱

1. 記載事項の実施に関する報告と評価

H30 年度計画事項	H30 年度実施状況	H31 年度改善方策	評 価 (5段階)
<p>【1-A】 オープンキャンパス参加人数の増加 [KPI] オープンキャンパス参加者数 H29 年度比で 5% 増 ⇒目標 6 月：23 名、7 月：59 名、8 月：38 名 (計 120 名)</p>	<p>6 月：25 名 (KPI 達成 +2 名) 7 月：56 名 (KPI 未達成△3 名) 8 月：30 名 (KPI 未達成△8 名) 合計 111 名 (KPI 未達成△9 名) *ただし 8 月は台風による東北本線遅延の影響で当日キャンセル 4 名</p>	<p>概ね KPI を達成できていることから、参加人数増加施策、KPI は変更せずに継続する。 オープンキャンパス参加者が実際に出願する割合の向上を目指す。(エントリーシートの記載ベースで、出願率はおおよそ 6 割)</p>	5
<p>1-B. 学科教員による高校生向け PR 機会の増加 [KPI] 出前授業、進路説明会などの実施件数 年間 20 件</p>	<p>出前授業、進路説明会 6 件のほか、東稜高校との連携授業 1 件 (3 週 6 コマ)、高校生参加型のワークショップ 2 件を開催した。</p>	<p>KPI は未達 (おおよそ 50%) であるが、可能な限り高校生に直接 PR する機会を持つことができた。次年度も KPI は変更せずに施策を継続する。(高校との連携授業は本事業と切り離して別立ての KPI とする)</p>	4
<p>2-①-A. 魅力的な授業の実現 (対象：教職員) [KPI] 学科授業改善委員会の意見へのフィードバック率 100% (専任・非常勤)</p>	<p>専任・非常勤合同 FD 研修 (8 月、2 月) において、授業改善委員会の内容に加えて授業評価アンケート結果や学生の振り返りシートをフィードバック。参加教員全員でディスカッションする時間を設けた。</p>	<p>学生の意見を教員にフィードバックするだけでなく、そこから得た気づきを授業改善に繋げる必要がある。H31 年度は、フィードバックを実質化することを目指し、KPI を更新したい。</p>	5

H30 年度計画事項	H30 年度実施状況	H31 年度改善方策	評価 (5段階)
2-①-B. 魅力的なカリキュラムの実現 (対象：教職員) [KPI] 学科評議員会を前・後期に1回ずつ開催する [新規]	学科評議員会は開催していないが、カリキュラム改訂においては学科内の意見聴取のほか、インターンシップ先企業や卒業生などの意見を取り入れており、内容としては十分に実現することができた。	情報ビジネス学科のカリキュラム構成から、規程通りに評議員を参集しての会議よりも、テーマごとに参加者を募っての協議の方が効果的であると考える。早急に学科独自の学科評議員会の在り方を提案する。	2
2-①-C. 学力の向上・学修成果の向上 (対象：学生) (1) 国語表現統一テストの合格率向上 [KPI] 1年次に国語表現統一テスト100%合格	合格(80点以上を2回)した学生は42.9%であった(佐藤教授の担当する3学科では最も合格率が高い)。統一テストの仕組みが大きく変更になったことが原因である。	次年度は統一テストが廃止され、日本語検定が導入される。日本語能力向上のために必要な施策を取り入れる。	3
2-①-C. 学力の向上・学修成果の向上 (対象：学生) (2) 新入生向けの入学前(リメディアル)教育を充実させる [KPI] 参加者アンケートによる満足度85%(過去2年間同水準を維持) ・参加率100%	2019/3/20に実施。 参加率は98.2%(体調不良による欠席1名)、満足度は82.5%であった。満足度については、「とても満足」が昨年比2倍となっており、内容と実施時期の見直しが奏功したと判断できる。	参加者満足度が高く、実施意図も十分に伝わり効果が出ているので、H31年度も同様の内容で継続する。	5
2-①-C. 学力の向上・学修成果の向上 (対象：学生) (3) 資格検定試験合格率の向上 [KPI] サービス接遇検定(2級)合格75%	サービス接遇検定(2級)合格38名(77.6%)でKPIを達成した。準1級も65.3%である。	KPIを見直し、準1級の合格率を設定する。 具体的施策は継続する。	5
2-①-C. 学力の向上・学修成果の向上 (対象：学生) (4) インターンシップの充実 [KPI] インターンシップI履修率80%(H29実績:81.8%/36名) インターンシップII履修人数10名(H29実績:12名)	「～I」の履修者数は43名(84.3%)でKPIを達成した。「～II」は履修希望者は3名であったが、希望する業種で受入企業が確保できずに履修に至らなかった。	金融機関を中心に「1dayインターンシップ」に移行が進んでおり、特に春休み中の受入企業確保が困難になっている。H31は実習日数を5日に半減(単位数も1に変更)したので、受入企業確保に努める。	4

H30 年度計画事項	H30 年度実施状況	H31 年度改善方策	評価 (5段階)
2-①-C. 学力の向上・学修成果の向上 (対象：学生) (5) 学習環境の充実 (KPI 設定なし)	教育用コンピュータネットワークの管理は問題なく行われた。デザイン用 Mac の更新については、アプリケーションの仕様変更のため、今年度は実施せず、様子を見ることとした。	Mac については老朽化が進んでいるため、H31 年度中に更新の方針を定める。 キャンパス LAN などの維持管理は、特に問題がないので現状の施策を継続する。	5
2-②-A. 学生指導の充実 [KPI] 前期：1・2 年次生の個別面談実施率 100% 後期：1 年次生の個別面談実施率 100	前期は KPI 達成した。 後期の 1 年次生面談は、実施しなかった。原因は、学科長の業務手配ミスである。	前期の個別面談は継続する。 後期の面談については、H30 の反省を元に、確実に面談を実施する。	3
2-②-B. 休退学・授業欠席の抑制 [KPI] 休退学 0 名 (H27 と同水準 ※経済的困窮による場合を除く)	退学者 3 名、KPI を達成できなかった。友達作りで躓いた学生 1 名、進路転換が 2 名である。	KPI は変更せず、継続する。 H31 は、入学前教育の段階で友達作りを支援するワークショップを取り入れるほか、学びのモチベーションを引き出す施策を盛り込む	1
2-②-B. 学科主催・学友会主催 行事の実施	各種行事は問題なく実施することができた。	それぞれの行事で満足度が高いので、次年度も大きな変更をせずに継続する。	5
2-③-A. 学外連携プロジェクトの推進 [KPI] 1 つ以上の学外連携プロジェクト・ボランティアに参加した割合 90%	1 年次に一つ以上の学外連携やボランティアに参加した学生は 87.6% であり、若干 KPI に届かなかった。参加していない学生は全員男子で、消極的な男子学生へのフォローが課題である。	施策は継続する。 引っ込み思案な学生でも気軽に参加しやすい案件を増やして行く。	5
2-③-B. 授業における地域連携 (KPI 設定せず)	ゼミ 2 での連携を実施したほか、マーケティング論で新たに地域課題をテーマに取り入れるなど、積極的に展開できた。	次年度も継続する。	5
2-③-C. 連携協定、高大連携の推進 [KPI] 連携協定先との半期に 1 回のミーティング実施	土湯温泉、伊達市とは月 1 回以上のペースで打ち合わせを実施し、実績を残すことができた。	次年度も継続する。	5

H30 年度計画事項	H30 年度実施状況	H31 年度改善方策	評価 (5段階)
3-1【進路を決めるまでのサポート】 [KPI] 1年次2月の段階で、進路について「決まっている」が80%	3月に振り返りを実施した結果、87.5%が概ね進路を定めおり、KPIを達成することができた。	キャリア支援体制が変わるため、質が低下しないよう、学科として施策を整備する。	5
3-2【進路を実現するまでのサポート】 [KPI] 卒業後（5月）の就職率100%	H30年3月卒業生は5月の段階で就職率100%（進学者を除く）であり、KPIを達成できた。	昨年度より導入した編入学の指導を手厚くするほか、就職指導の質低下を防ぐ施策を盛り込む。	5

2. 計画記載以外で実施した事項の報告と評価

H30 年度計画事項	H30 年度実施状況	H31 年度改善方策	評価 (5段階)
概ね運営計画と関連付けて実施したため、特記事項なし			

3. その他（特記したい事項）

事項	内容
1. 福島産業賞「学生奨励賞」を受賞しました	第4回福島産業賞で、新設された学生部門に「若旦那図鑑」の取り組みを応募。学生奨励賞を受賞しました。
2. 経済産業省「社会人基礎力育成グランプリ」北海道・東北ブロック最優秀賞を受賞しました	大学生のPBLによる社会人基礎力育成をテーマにしたコンペに「阿武隈急行線はちみつビールクラウドファンディング」を応募。プレゼンテーションの結果、北海道東北ブロックで最優秀賞を受賞。ブロック代表として全国大会に出場しました。
3. クラウドファンディング成功、阿武隈急行線の活性化に取り組みました	30周年ロゴマークの作成、グッズ制作、周年行事のコンセプトワーク、企画運営、クラウドファンディングなどを実施。阿武隈急行線の千葉社長より、感謝状を頂きました。

事項	内容
4. 東稜高校との連携授業を実施しました	2年目を迎える連携授業を実施。参加した高校生はもちろん、担任の先生からも非常に高い評価を頂きました。
5. 商工会議所と連携し、中心市街地活性化のワークショップを開催しました	福島駅前再開発についてのワークショップ、医大新キャンパスを見越した駅前ランチ事情についての意見交換など、中心市街地活性化に学生の意見を反映させる機会を作りました。
6. 観光コンベンション協会と連携し、西口案内所に花見山PRブースを設置しました	観光コンベンション協会がリニューアルした案内所に、花見山のPRブースを設置しました。2020年オリンピックに向けて、地域の観光産業にコミットしていく狙いがあります。

平成 30 年度 福島学院大学・大学院・福祉学部・短期大学部

自己点検・評価報告書

令和元年 5 月 1 日 発行

発行者

福 島 学 院

福島学院大学・大学院・福祉学部・短期大学部

〒 960-0181 福島県福島市宮代乳児池 1 - 1

電話 024-553-3221

編集

自己点検・評価委員会

委員長 梅宮れいか



福島学院大学
大学院・福祉学部・短期大学部